

イマドキ親世帯の実家ネットワーク

調査報告書

旭化成ホームズ株式会社

くらしノベーション研究所

はじめに

二世帯住宅という住居形式（住まい方）は1975年に弊社が初めて提案して以来38年が経過し、親子同居の住まい方のひとつとして世の中に広く普及してきましたが、その経過を詳細に見ますと、二世帯住宅とその暮らしは固定的なものではなく、時代時代の社会状況や同居観を反映して少しずつ変化してきています。

当初は親子同居といえは息子夫婦との同居が中心でしたが、いまでは娘夫婦との同居も当たり前になっています。また、同居の理由も、経済的な理由が上位だったものが、家事・育児の協力や親世帯の老後を考えての同居が上位になり、両世帯とってメリットの大きい、より積極的な同居のかたちが目につくようになってきています。

私どもの研究もこのような変化を、実際のお客様の暮らしの中から捉えてテーマを設定してきました。昨年は、晩婚化、非婚化により30代40代の単身者が急増しているという状況の中で、二世帯住宅に子世帯の兄弟姉妹に当たる単身者が同居している場合に着目し、その実態調査とそれに基づく新しい二世帯住宅を2.5世帯住宅として提案しました。

今回は、二世帯住宅の親世帯に着目し、その暮らしの実態や同居意識を非同居の子世帯まで含めて調査しました。その背景には、現在の親世帯がこれまで社会に大きな変化をもたらした団塊の世代を中心とした世代に移行してきたことがあり、二世帯住宅やその中で家族関係を考えるに当たって親世帯の暮らしや意識に改めて着目すべき時期にきたという認識があります。

調査の結果は、現代の親世帯（イマドキ親世帯と呼んでいます）が、他の世代と異なる特徴を持っていることがわかると同時に、二世帯住宅を考える上での新しい視点が浮かび上がってきました。その視点とは、都市における「実家ネットワーク」ともいうべきもので、同居している子世帯に加え、同居していない子世帯や地域社会との緊密な関係です。

これまで同居している家族間の関係が主なテーマでしたが、今回は、それを超えた幅広い関係性を念頭に置いた家づくりの重要性が見えてきたと言えます。このような視点から二世帯住宅を見直し、そのあり方を考えることは、今後の二世帯住宅の新しい展開に繋がると共に社会的な意味も大きいと考えますので、ここにその内容を報告させていただきます。

最後になりますが、今回の調査にご協力いただいた方々に深く感謝申し上げますとともに、今回の調査報告・提案が今後の同居を考える上でのご参考になれば幸いです。

平成25年8月
旭化成ホームズ株式会社
暮らしノベーション研究所

目次

第1章：社会背景

1-1. 親世帯は戦中戦後生まれが半数以上	8
1-2. 家族の変化	10

第2章：調査概要

2-1. 調査一覧	14
2-2. 調査1：親子同居のヘーベルハウス調査	15
2-3. 調査2：二世帯同居と近居・遠居子世帯との関係	17
2-4. インタビュー調査の概要	18

第3章：実家ネットワークの実態

3-1. 親子同居の家族構成	22
3-2. 家づくりのプロセス	24
3-3. イマドキ親世帯のくらしの実態	26
3-4. 近居・遠居家族とのネットワーク	28
コラム：東大生の同居と実家継承の意識	31
3-5. 仕事のネットワーク	32
3-6. 地域・社会とのネットワーク	34
3-7. 孫とのネットワーク	36
3-8. 介護のネットワーク	38
3-9. 二世帯住宅の相続についての意識	40

第4章：イマドキの二世帯住宅

4-1. 二世帯住宅のタイプ	44
4-2. 二世帯の生活リズム	46
4-3. 面積と親世帯の間取り	48
4-4. 個の作業空間	50
4-5. 実家ネットワークの収納	52

第5章：住まいの空間提案

5-1. 実家力のある二世帯住宅の空間提案	56
5-2. イマドキLDK：集まる・招く空間	58
5-3. タタミリビング：泊まる空間の兼用と転用	60
5-4. どっちもルーム：泊まる・収納する・用途可変空間	62
5-5. コックピット書斎：個の空間	63

イマドキ親世帯とは？-----親世帯の世代分類

コレマデ
-1939生・73歳-

親世帯の世代は、生年に応じて3つに分類しました。

イマドキ
1940-49生・63-72歳

コレマデ親世帯は戦前生まれです。2012年時点で73歳以上の層です。

コレカラ
1950-生・62歳

イマドキ親世帯は戦中戦後生まれで団塊の世代を含みます。

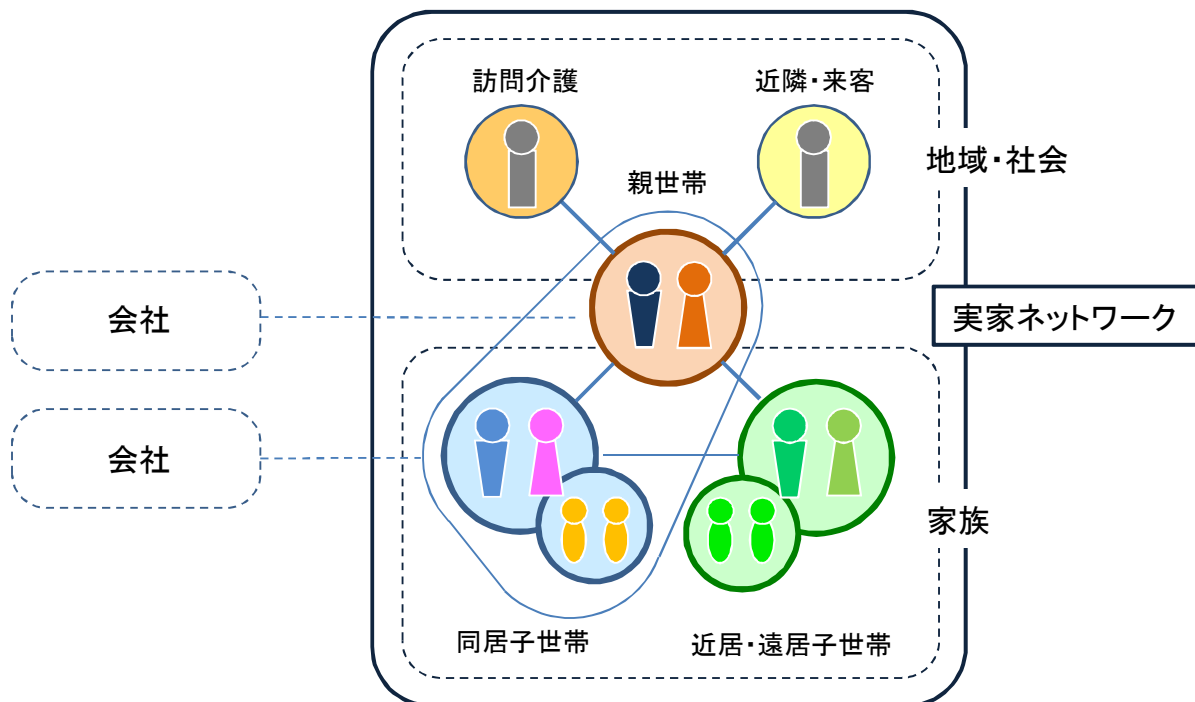
コレカラ親世帯はポスト団塊以降の親世帯としては若い世代です。

実家ネットワークと実家力

親世帯は独立した子世帯との強いネットワークを維持しており、これが二世帯同居へとつながります。このとき、子供が2人であればもう一つの近居または遠居の子世帯があることとなります。

また、親世帯には元々地域に根差した来客が居るでしょう。将来的には介護サービスもこのような地域の拠点との連携で行われることとなります。これらの家族、あるいは地域・社会との関係を「実家ネットワーク」と呼び、緊密で良好なそれを築く力を「実家力」と名付けました。

会社や同窓会でのネットワークでは、人が集まる大都市中心部が交流の場になっています。これに対して、実家ネットワークでは住まいが交流の場になると考えられます。このような実家ネットワークの交流に配慮された家を「実家力」のある家と呼びます。



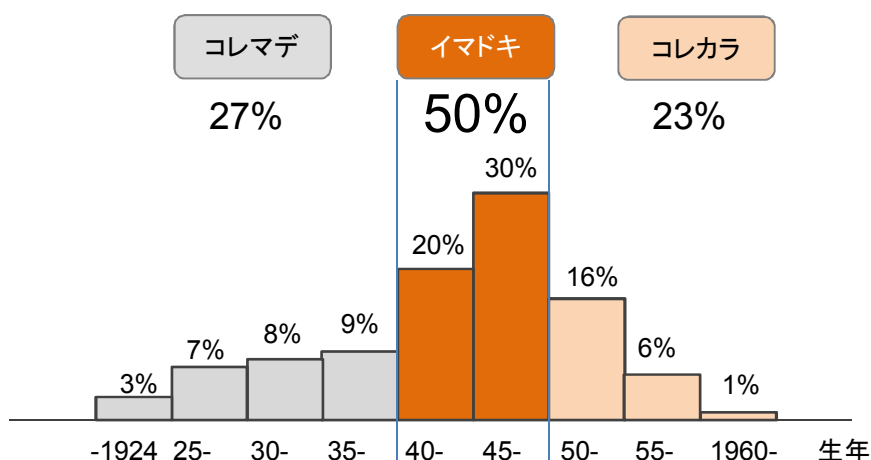
第 1 章 社会背景

1-1. 親世帯は戦中戦後生まれが半数以上

■ヘーベルハウス二世帯における親世帯の年齢

2011年度契約の二世帯住宅建替えのケース中、築年数と親世帯年齢が判明しているものの親世帯年齢分布です。イマドキ親世帯が50%に達しています。

◇親世帯の年齢分布
(2011年度 N=332)



■二世帯住宅建替え時の築年数分布と親世帯平均年齢

2011年度契約の二世帯住宅建替えのケース中、築年数の分布を示します。築31-40年（1971-80年築）が最も多く70年代に建てられたストックの建て替えが中心であることがわかります。

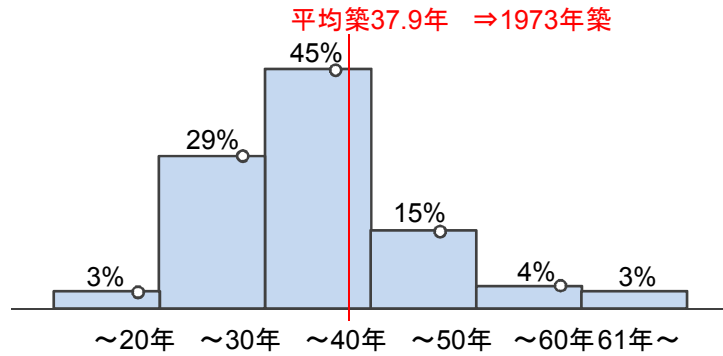
親世帯の契約時平均年齢は築31-40年、41-50年のグループでは高くなりますが、他はほぼ65-66歳の範囲に納まります。築60年では計算上6歳頃に建てた家となり、祖父母の代から継承、または中古で購入した家の建て替えであると考えられます。子世帯の平均年齢は親世帯より27-30歳若くなっています。

■都市住宅地の拡大期のストックを二世帯に建替え

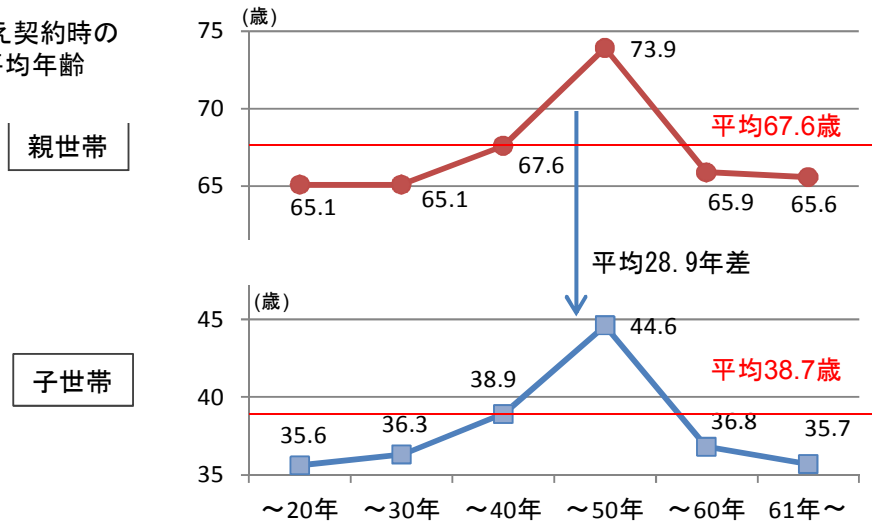
1950-60年代に大量に流入した若年層は、70年代に入ると郊外に土地を求め、戸建住宅が大量に建設されました。1973年には住宅着工戸数は191万戸に達し、内注文住宅と戸建分譲の合計は1973年の97万戸、70年代の10年間では870万戸が建設されました。これらが現在建替え期に入っていると考えられます。

ヘーベルハウスの二世帯住宅に建て替えられたものの平均築年数と、その時の親世帯平均年齢をこのグラフに重ねてみました。2001年には1969年、2011年には1973年のストックが平均的に二世帯住宅に建て替えられたこととなります。70年代のストック戸数の多さを考えると今後も多くの建て替えが期待できる市場と言えます。

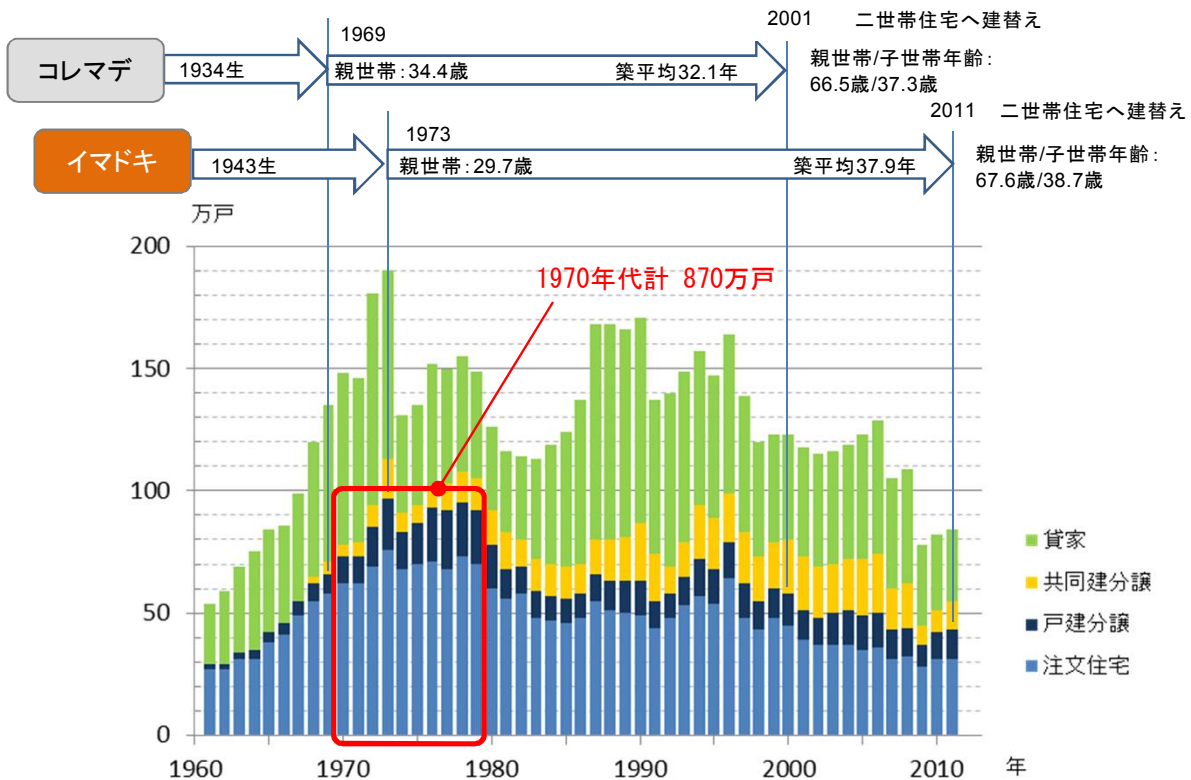
◇二世帯住宅建替え時
既存建物の築年数分布
(2011年度契約)



◇二世帯住宅建替え契約時の
親世帯・子世帯平均年齢
(2011年度契約)



◇住宅着工戸数の推移と二世帯住宅建替え時の平均築年数・親世帯平均年齢



国土交通省 住宅着工統計 より作成

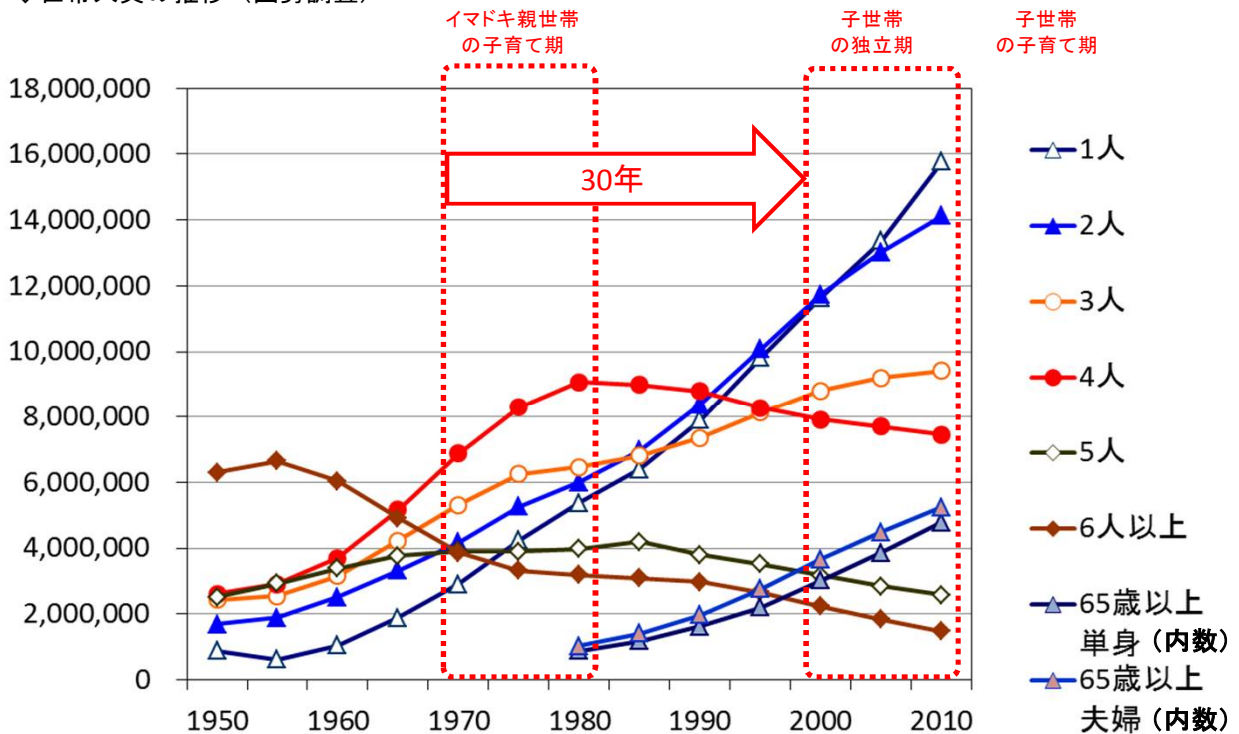
1-2. 家族の変化

■70年代に急増した4人世帯が現在の親世帯・子世帯に

70年代の住宅需要は、急速な核家族化の結果として、6人以上の世帯が急減し4人世帯が急増したことが背景にありました。そして30年後の2000年代になると70年代の4人家族から子が独立して世帯を造り、65歳以上の夫婦のみや単身世帯が増加していきます。

独立した子の世帯はまず単身者1人、次に夫婦のみの2人世帯となり、子の誕生で次第に3人、4人の世帯へと移行していきます。非婚化により1人世帯が増え、晩婚化により子供を持たない2人世帯も増加していますが、3人、4人の世帯も大きく減ることなく推移しています。

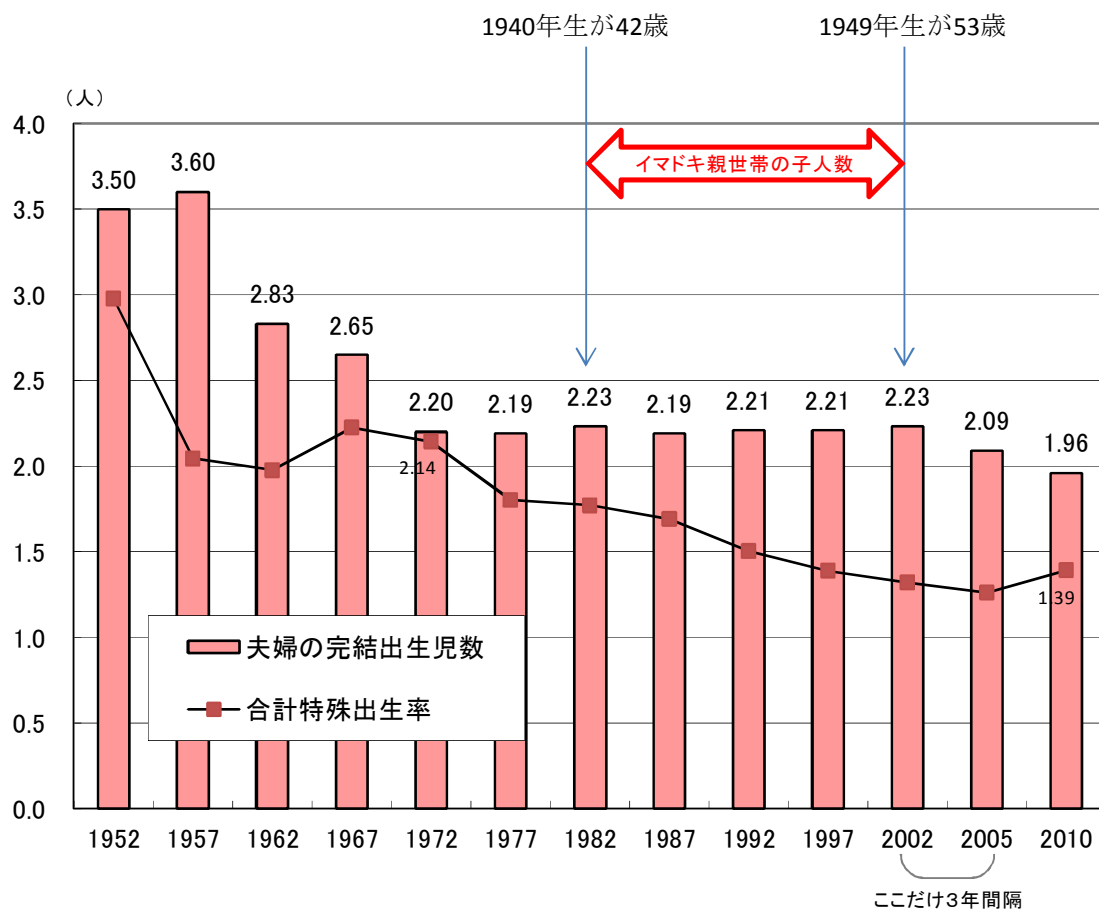
◇世帯人員の推移（国勢調査）



■親世帯世代は子供2人超の時代

子どもの数の平均は「合計特殊出生率」という、調査年に生まれた子供の数を15-49歳の女性全員の人数で割る、つまり高校生や独身OLのような結婚していない人を割り算の分母に含めてしまう算出法が一般に多く見られます。これに対し、調査年時点で結婚後15～19年の夫婦の子供数の平均が「完結出生児数」であり、夫婦が何人の子を設けたかの指標としてはこちらの方が適当です。

夫婦の完結出生児数は1950年代の3.5人前後から60年代に急減し、70年代以降は2005年まで2.1～2.2人で安定していました。この間合計特殊出生率は低下を続け、少子化が話題となりましたが、これは結婚しない人の増加に困っており、結婚した場合の子どもの数は減っていませんでした。つまり70年代以降は、結婚したら2人の子ができる、という状態が続いたこととなります。2010年（1990年代前半に結婚）に子ども1人の夫婦が増加し、はじめて1.96人と2人を下回りました。



夫婦の完結出生時数：国立社会保障・人口問題研究所 出生動向基本調査より作成
 合計特殊出生率：国立社会保障・人口問題研究所 人口統計資料集より作成

■二世帯住宅の定義と建物分離度

旭化成ホームズでは、二世帯住宅を「世帯別のキッチンを持つ住宅」と定義しています。二世帯住宅は、建物分離度＝両世帯の共用空間の状況によって次の3タイプに区分しています。




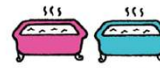






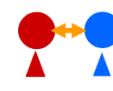



独立二世帯：キッチン、浴室、玄関が世帯別にあり、独立した住戸であるもの

共用二世帯：キッチンは世帯別にあり、玄関や浴室などを共用するもの

融合二世帯：主キッチンが共用であり、いずれかの世帯専用のサブキッチンを持つもの

親子同居で居住している住宅であってもキッチン1つのものは「一体型住宅」であり二世帯住宅とは呼びません。

一体世帯住宅：キッチンが共用で一つであるもの

夕食スタイル	夕食独立		夕食融合		
キッチン	世帯別LDK 		サブキッチン 	共用LDK 	
浴室	世帯別浴室 		共用浴室 シャワー室・洗面台 洗濯機付加 	共用浴室 	
玄関	世帯別玄関 	専用勝手口・通用口付加 共用玄関 	共用玄関 		
全体構成	通路なし 	通路あり 	世帯別空間 主体 	世帯別空間 + 共用空間 	各人個室のみ 共用主体 
名称	独立二世帯		共用二世帯	融合二世帯	一体型

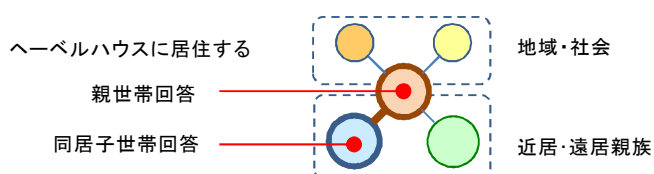
第2章 調査概要

2-1. 調査一覧

本調査報告書では、親世帯の実家ネットワークについての以下の調査の結果を掲載し、それらを総合して考察をしています。調査のプロセスを以下に示します。

2013/02: 調査1: ヘーベルハウスの親子同居者調査

調査対象と方法: 親子同居のヘーベルハウス親世帯・子世帯へのWebアンケート



2013/02: インタビュー1: 同居に消極的な60代の意識

調査対象と方法: 親子同居に消極的な60代男女6名への個別デプスインタビュー

2013/03-07: プラン分析: 親世帯の間取りと満足度との関係を分析

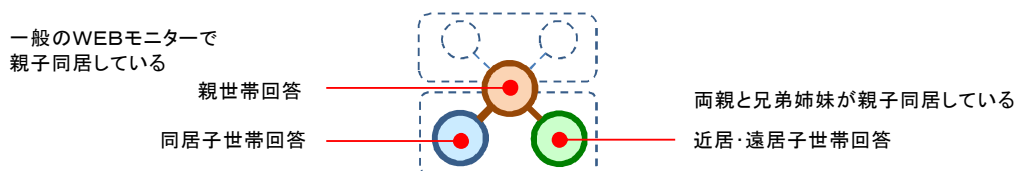
調査対象と方法: 調査1回答者の内、親世帯の典型的プランを分析

2013/05: インタビュー2: イマドキ親世帯の訪問調査

調査対象と方法: 調査1回答者の内、イマドキ親世帯の特徴を備えた住宅4邸を訪問

2013/07: 調査2: 二世帯同居と近居・遠居子世帯との関係

調査対象と方法: 親世帯・同居子世帯・近居遠居子世帯三者へのWebアンケート



2013/08: イマドキ親子の二世帯住宅「都市の実家」発売

構成要素空間の提案と、その設計ノウハウの構築

2-2. 調査 1 : 親子同居のへーベルハウス調査

■調査の目的

親子同居をしている親世帯および子世帯の生活の実態や意識の特徴を把握すること。

■調査時期：2013年2月

■調査対象：自社建築注文住宅の居住者のうちへーベリアンネット登録者中、

- 1) 二世帯住宅にお住まいの親世帯、子世帯（建設年代は全年代）
- 2) 一体世帯住宅（＝キッチンが世帯別に分かれていない）で、2000年以降に親子同居を想定して建設された親世帯、子世帯

■調査方法：Webアンケート

親世帯、子世帯それぞれに専用の質問と回答画面を用意。

■調査エリア：自社建築エリア全体

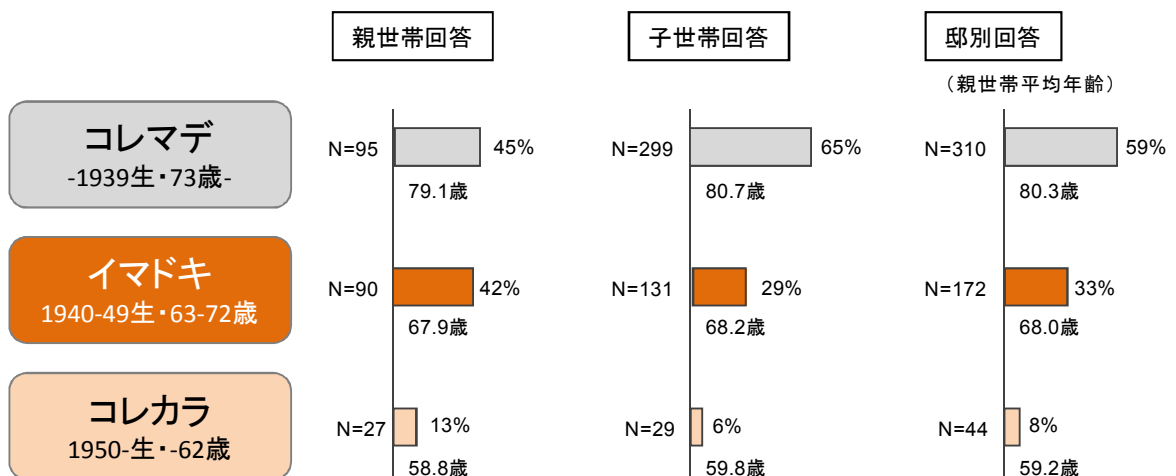
関東～東海～関西～山陽～北九州の各都府県

■集計方法：以下の3通りの集計を行い、その結果を分析

親世帯回答：親世帯調査へ回答されたもののうち、回答画面間違いなどの無効データを除いたもの（有効回答数212）

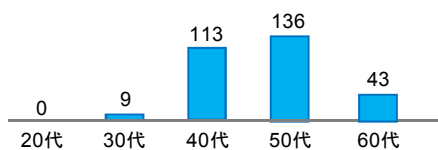
子世帯回答：子世帯調査に回答されたもののうち、回答画面間違いなどの無効データを除いたもの（有効回答数459）

邸別回答：同一邸で親世帯子世帯双方が回答したものを統合し、邸別に集計したもの（有効回答数526）

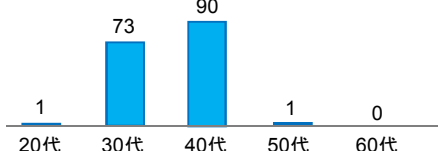


◇子世帯夫の年齢分布（回答時）

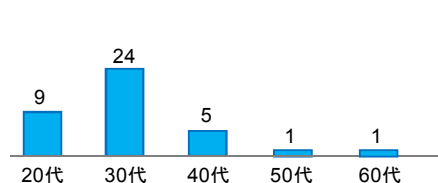
コレマデ（平均51.8歳）



イマドキ（平均40.0歳）

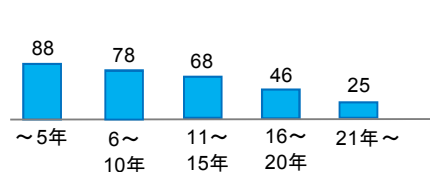


コレカラ（平均35.9歳）

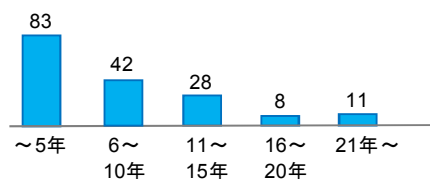


◇築年数（回答時）

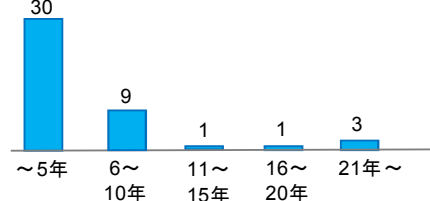
コレマデ（平均9年11ヵ月）



イマドキ（平均6年11ヵ月）

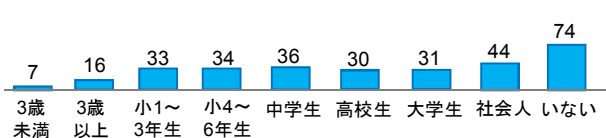


コレカラ（平均4年7ヵ月）

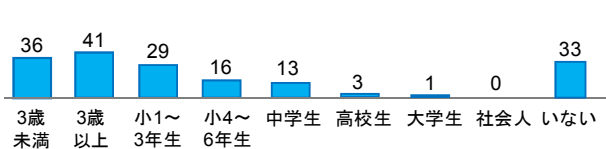


◇子世帯末子の学齢分布（回答時）

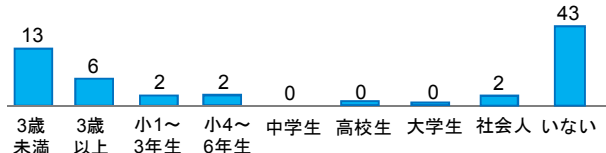
コレマデ



イマドキ

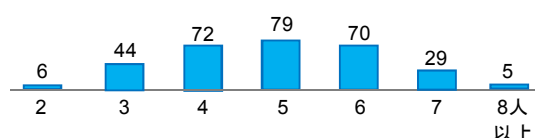


コレカラ

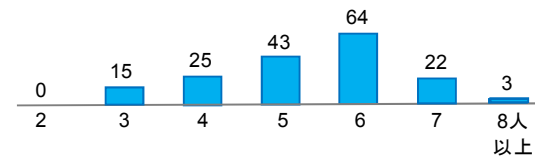


◇同居人数（両世帯の合計・回答時）

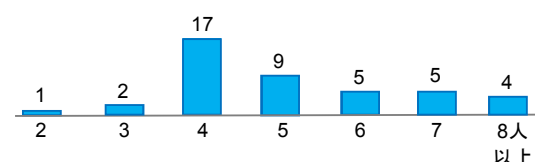
コレマデ（平均4.9人）



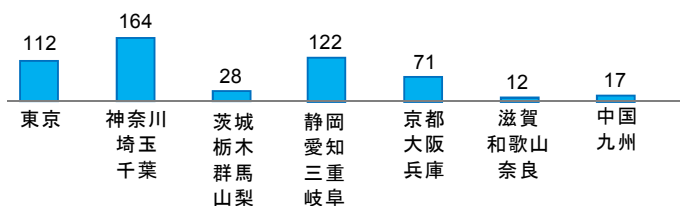
イマドキ（平均5.4人）



コレカラ（平均5.1人）



◇地域



2-3. 調査 2 : 二世帯同居と近居・遠居子世帯との関係

■調査の目的

二世帯住宅に同居している親世帯と子世帯、および、親世帯とは別居しているが二世帯住宅に同居している兄弟姉妹を持つ子世帯について、それぞれの介護、相続、訪問についての意識を把握すること。

■調査時期：2013年7月

■調査対象：以下の3種類の世帯

- ・二世帯同居親世帯：二世帯住宅に子世帯と同居している親世帯（既婚で子持ちの子が2人以上いる）
- ・二世帯同居子世帯：二世帯住宅に親世帯と同居している子世帯（既婚で子どもがおり、兄弟姉妹も既婚子持ち）
- ・近居遠居世帯：二世帯住宅に親世帯と同居している兄弟姉妹がいる子世帯（既婚で子どもがおり、兄弟姉妹も既婚子持ち）

■調査方法：Webアンケート

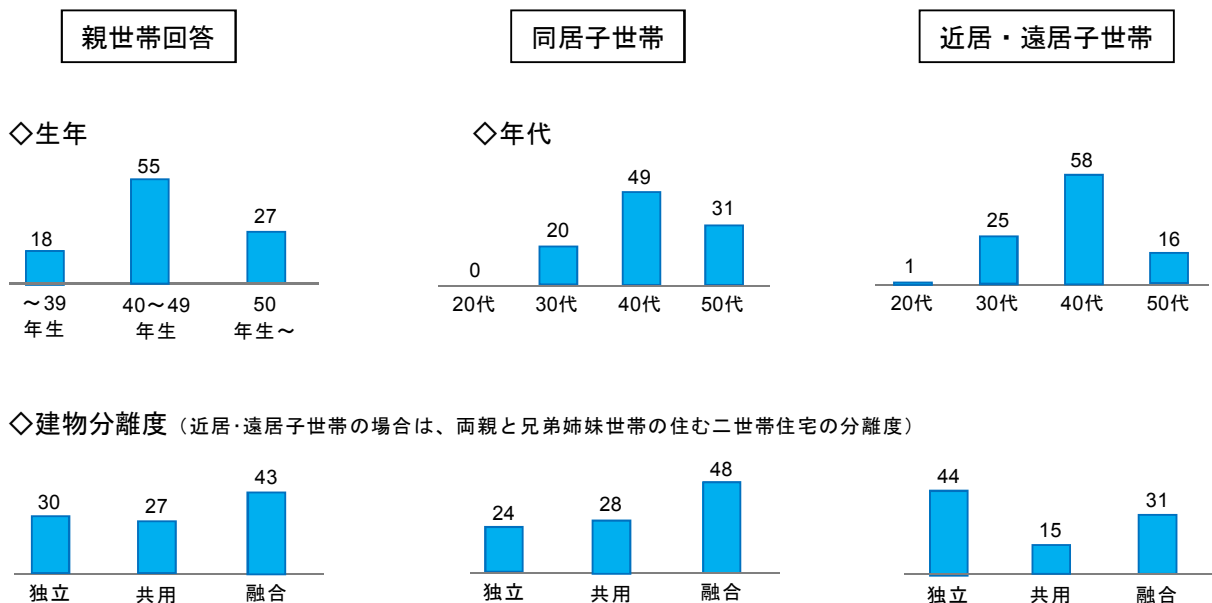
同居親世帯回答：（有効回答数100）：息子夫婦同居50＋娘夫婦同居50となるよう割付

同居子世帯回答：（有効回答数100）：息子夫婦同居の夫50＋娘夫婦同居の妻50となるよう割付

近居遠居子世帯回答：（有効回答数100）：親世帯の息子50＋娘50となるよう割付

■調査エリア：東京、神奈川、千葉、埼玉、静岡、愛知、三重、岐阜、京都、大阪、兵庫に二世帯同居住宅があること。 近居遠居子世帯の居住地は限定しない。

■集計方法：上記回答区分に従い集計



2-4. インタビュー調査の概要

2013/02: **インタビュー1**:同居に消極的な60代の意識

■調査の目的と方法

60代で二世帯同居に踏み切れない親世帯の意識と障害となっているポイントを探るため、事前にスクリーニング調査を行った上で、二世帯住宅で子世帯と住むことに対して消極的な人6名を抽出し、個別に約2時間のインタビュー調査を行った。

■調査日 2013/2/17-18

■調査対象者とその条件

- ・62才～66才の男女 6名 1都3県在住
- ・現状親世帯のみで住み、子が既婚でかつ孫がいること
- ・二世帯同居の経験がないこと
- ・築25年以上で建替え意向があること

■調査結果の概要

◇子世帯とのネットワーク

近居遠居子との交流は盛ん。娘との関わりは強い。
来ると嬉しい反面、煩わしいとも感じている。

子供たちとの集合場所は実家。行き来の頻度は長女は年2回くらい。長男は毎日帰りがけに顔を出している。嫁さんは毎週来るくらいかな。たまに顔を出してくれればいい。あえて来てくれ、来てくれとは言わない。

62歳 男性 千葉市 築31年

娘が近くにいるのが本当にうれしい。女の子はお嫁に行っても自分の母親の近くがいいんじゃないかと思う。

63歳 女性 世田谷区 築33年

子世帯は来なくていいですよ。孫はかわいい、かわいいと言うけど、子供のほうがかわいいと思うんですよ。来ればうれしいけど、帰ればもっとうれしいよね。

63歳 女性 中野区 築33年

◇地域・知人との関わり

男性でも意外と地域と結びついているが、知人との交流はあっても地域との関わりが薄い層もいる。

仕事をやめて地域と付き合いようになった。前は仕事のあと飲み屋に行くぐらいだったのが、がらっと生活が変わった。公民会は3、40代の若い奥さんが多い。子供が小学校の関係のグループが多いのでそういう人とも知り合ったし、老人会でおじいちゃんおばあちゃんもいて幅広い年代と話せて面白くて、充実感がある。

64歳 男性 相模原市 築28年

今は地域の独居老人のところに宅配弁当をやっている。気が向いたときしかやっていないけれど。それはなぜかというと、自分の老後に対してどうあるべきかこれから向き合えないといけないので参考になるかなと思った。最初の2ヶ月ぐらいは特養ホームでお掃除手伝いをした。

66歳 男性 世田谷区 築34年

趣味の友達だったり、ジムで一緒だった友達だったりしよっちゅう出かける。地域活動は何もしていない。地域活動って何も無いんじゃないかな。あとは地域のお祭りみたいなのがあったり、区民センターみたいなところでちょっとあったりしているけど、出たことがない。煩わしい。面倒くさくて。

63歳 女性 世田谷区 築33年

◇現在の家への不満

子供のモノが置かれたまま。泊まる場所がない。

物がいっぱいある。娘が置いていっている。捨てられなくて置いてある。今、10畳くらいの部屋に全部入っていて物置になっている。片付けに来てと言っているけど、息子は忙しくてなかなか来ない。娘にも捨てていいのはどれ？と聞いているけど、いっぱい置いてある。主人が、期限を切って捨てたら？と言うんだけど、すぐある。

63歳 女性 世田谷区 築33年

今の家ってリビングが20畳とか25畳あるけど、8畳だから。子供が4人でそのつれあいと子供がきたら、えらいことですよ。泊まる場所が意外とない。(和室も2部屋あるが?)でも、妻も次女も皆別々に寝ていますからね。(大人数来たら泊まれない?)だからみんなお帰り願う。

62歳 男性 千葉市 築31年

◇二世帯住宅にする可能性

健康で今の生活を続けたいと思っていて、同居を現実のものとして受け止めていない。子供から同居の提案があれば、同居を受け止める。同居拒否の人もいる。

お嫁さんに気を遣わせるのも悪いし、私も気を遣うのが嫌だし。二人とも元気だから、当分はいいかな。どちらかが病気がしたら変わるかもしれないけど、なるべくなら面倒をかけたくない。健康に気をつけて、自分の好きな趣味を生かしていきたいと思っている。やりたいことをやって。今の生活をずっと続けたい。

63歳 女性 世田谷区 築33年

私の住環境からすると二世帯住宅のイメージが出てこないが、同居は息子達から言われたら受ける。それぐらい前向きの気持ちがあるなら。今の土地に建て直して二世帯にして住もうよということは、子供たちが将来を考えている。たかりに来てくれるわけじゃない。そういう気持ちが生まれてくれたら嬉しい。それがいい加減でも、考えていなければ言っていないと思う。

66歳 男性 世田谷区 築34年

言ってきたけど断った。お腹に子供ができて、うちは広いから、一緒に二世帯っぽく改良して、一緒に住みたいと言ってきたけど、私は嫌ですと。今お嫁さん大好きなのに、一緒に住んだら嫌いになっちゃうから嫌だよと。少しだけ出してあげるから、マンション買ってと言った。お金を出してもあなたたちと住みたくないと言った。だから今更言っていない。そのとき借金はきっぱり断った。

63歳 女性 中野区 築33年

2013/03-07: プラン分析: 最近の特徴を分析

■調査の目的と方法

親世帯の満足度と間取りとの関係を把握するため、調査1でご回答いただいた親世帯の内、典型的と思われる両親、子世帯夫婦と孫がいる世帯で、独立及び共用二世帯(延面積250㎡以下)一都三県(東京・神奈川・千葉・埼玉) 37例の親世帯プランを分析した。

祖父母や兄弟姉妹が同居している家は除いている。

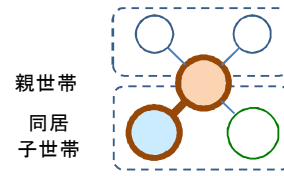
2013/05: インタビュー2: イマドキ親世帯の訪問調査

プラン分析を行ったもののうち、イマドキ親世帯に特徴的な空間を持つ4邸について訪問調査を行い、同居までの経緯や現在の暮らしについてのお話を伺い、空間の使い方を調査しました。

CodeNo 続き柄	家族構成年齢	所在地 最寄駅	旧宅 建替え年	二世帯型 延べ坪数/敷地坪数	プラン特徴
事例A 息子夫婦	父68+母65 夫38+妻36 +孫男3	町田市 成瀬駅 /つくしの駅	1976築 ↓(築34年) 2010建替	独立二世帯 2階建て 57坪/敷地74坪	親世帯2階 書斎2帖
事例B 息子夫婦	父66+母66 夫37+妻37 +孫女7女4	練馬区 大泉学園駅	1953築 ↓(築49年) 2012建替	独立二世帯 2階建て 53坪/敷地72坪	サラウンドK フラットデッキ 書斎15×15 トイレ準備配管
事例C 娘夫婦	父65+母59 夫33+妻32 +孫男5男2	岡崎市 岡崎公園前駅	マンション ↓ 2008新築	共用二世帯 3階建て 68坪/敷地50坪	親世帯3階 EV付 どっちも納戸
事例D 娘夫婦×2	①祖母91 父66+母63 +三女35 ②夫38+長女38+孫男5 ③夫52+次女36+孫女4女2	世田谷区 桜新町駅	1949築 ↓(築63年) 2012新築 借地	③独立+①②融合 3.5世帯 3階建て 99坪/敷地65坪	祖母同居 父要介護 独立孫の 泊まる部屋

第3章 実家ネットワークの実態

3-1. 親子同居の家族構成



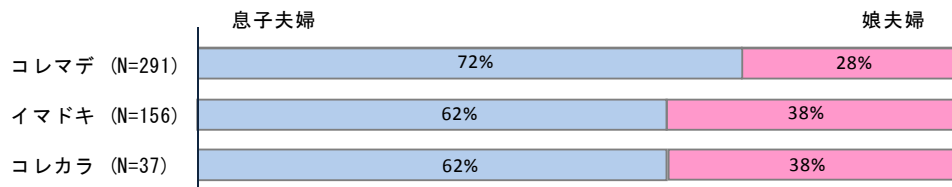
■娘夫婦同居の増加

調査1 回答者の家族構成を分析しました。

息子夫婦同居・娘夫婦同居の比率では、コレマデと比較してイマドキ、コレカラで娘夫婦同居の比率が高まり、4割に近づいています。長男が同居し家を継ぐという慣習が薄れ、男女平等に同居相手を選択する時代になってきたのかもしれない。

◇息子夫婦同居・娘夫婦同居の比率

調査1 邸別回答



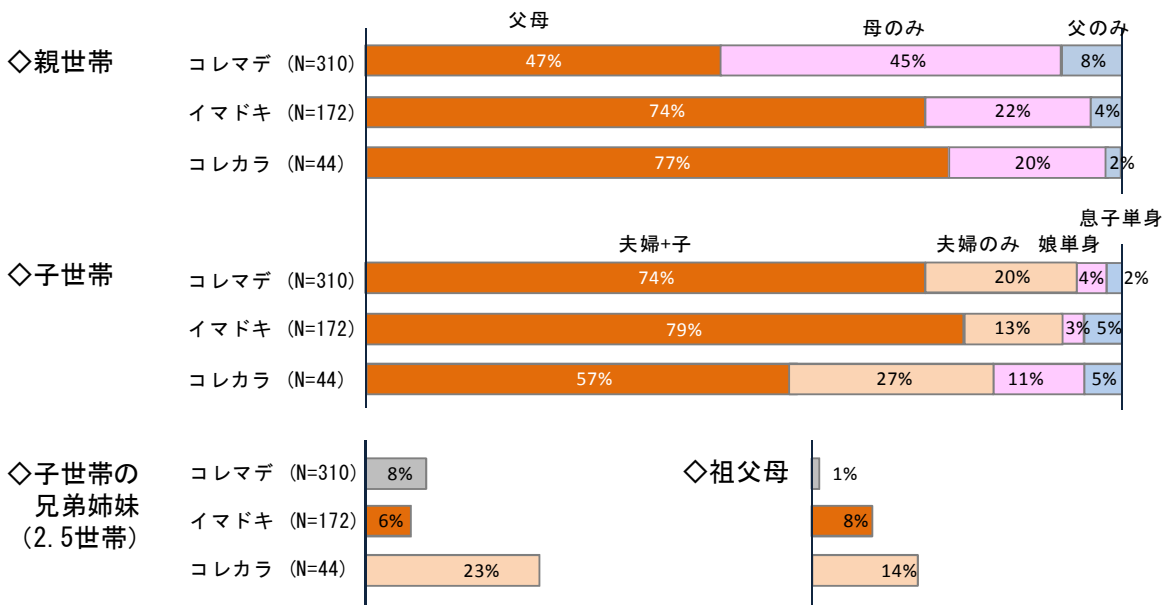
■家族構成の多様化

親世帯の家族構成では、年齢の高いコレマデ世代で最も片親の率が高く母のみ+父のみで5割を超えます。年齢の若いイマドキ、コレカラの世代でも2割以上が片親であり、母1人になったことで二世帯になるケースが多いと推測されます。

子世帯では夫婦+子が多いですが、コレカラ世代では単身者が2割弱居て、将来の二世帯化への準備として独立したスペースを用意したものと思われまます。

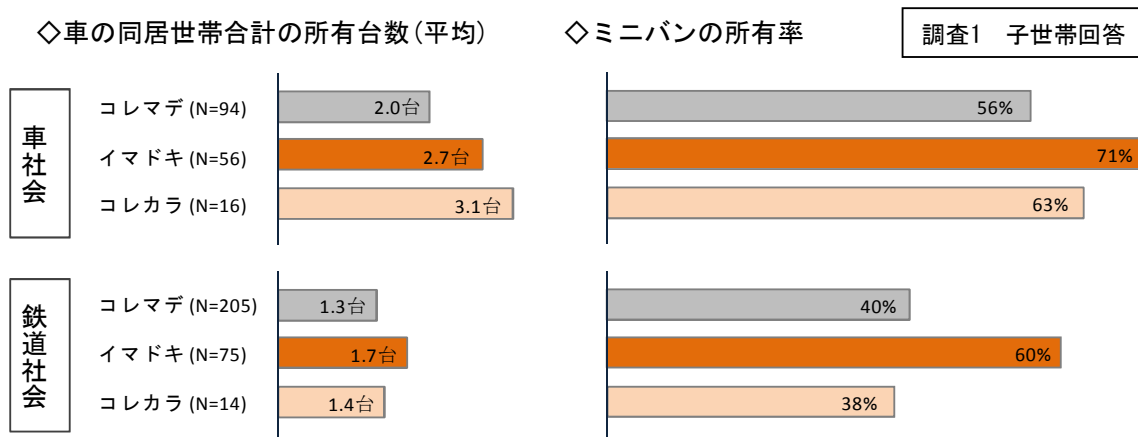
コレカラ世代では単身兄弟姉妹の同居(2.5世帯)や祖父母の同居も多く、多様な組合せの家族構成が二世帯住宅で集居していることがわかります。

調査1 邸別回答



■イマドキ二世帯には同居家族全員が乗れるミニバン

都道府県別に鉄道社会、車社会に当社の調査発表「家族の生活時間」做って分類し分析しました。車社会の地域では、平均所有台数が若い世代ほど多く、コレカラ世代では同居世帯合計で3台を超えています。イマドキ世代ではミニバン（6人以上乗れる車）の所有率が高く、同居家族全員が一緒に乗る機会が多いことが推測されます。



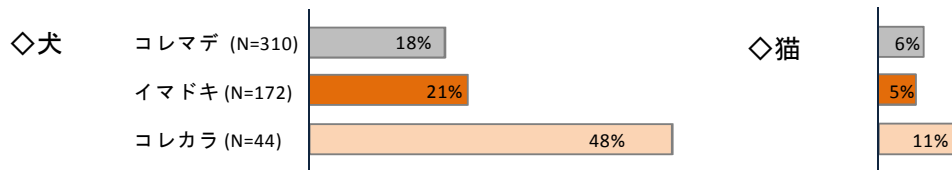
◇調査対象エリアの区分



コラム：コレカラ二世帯には犬が多い

調査1 邸別回答

ペットは、猫よりも犬を飼っている人が多く、特にコレカラ世代では犬を飼っている割合が5割近くになっています。



3-2. 家づくりのプロセス

■イマドキ子世帯は賃貸住まいで持ち家への移行時期に同居

建設前の子世帯の居住形態では、イマドキ親世帯世代の子世帯（イマドキ子世帯）は賃貸（マンション+社宅/寮+戸建て）が65%を占めており、同居の経緯の自由回答では賃貸から持ち家への移行を検討を考えた結果、同居を提案した例が多く見られました。一方コレマデ子世帯では、現在地の戸建てに子世帯が居住していた割合が比較的高く、既に同居していて加齢配慮された二世帯住宅に建替え、あるいは親を呼び寄せての同居するケースと考えられ、親世帯70代以降に建設した例が多い影響と思われます。

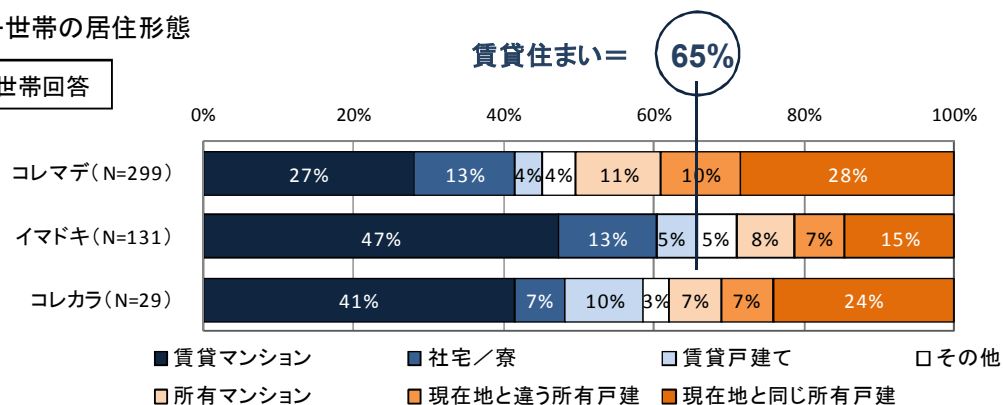
■建設資金は子世帯主体、親は土地提供のみで手持ち資産を使わない

建設時の資金分担を東京都区内の2支店で抽出調査したところ、建設資金は子世帯が主体となりローンを組んだケースが多くを占めました。賃貸の家賃が高いエリアでは、ローン返済額が家賃を下回ることが多く、立地のよい場所に二世帯住宅を建てられるのであれば持ち家を取得した方が経済的に有利となります。

一方で、親世帯は金融資産を温存でき、老後の備えや相続時の近居・遠居子世帯への財産分与に当てるなど、自由度が高まります。

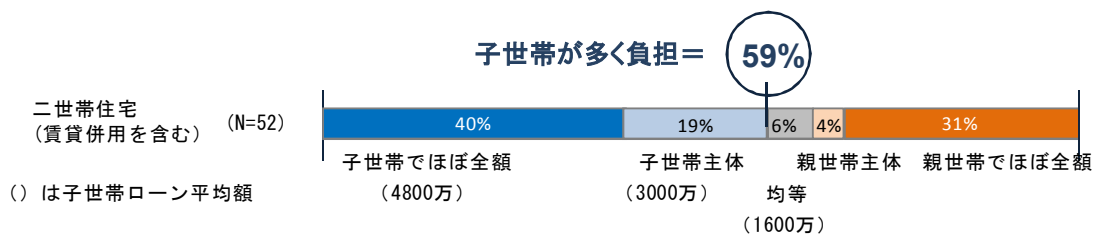
◇建設前の子世帯の居住形態

調査1 子世帯回答



◇二世帯住宅建設時の資金分担

新宿支店・東京中央支店契約物件より抽出調査



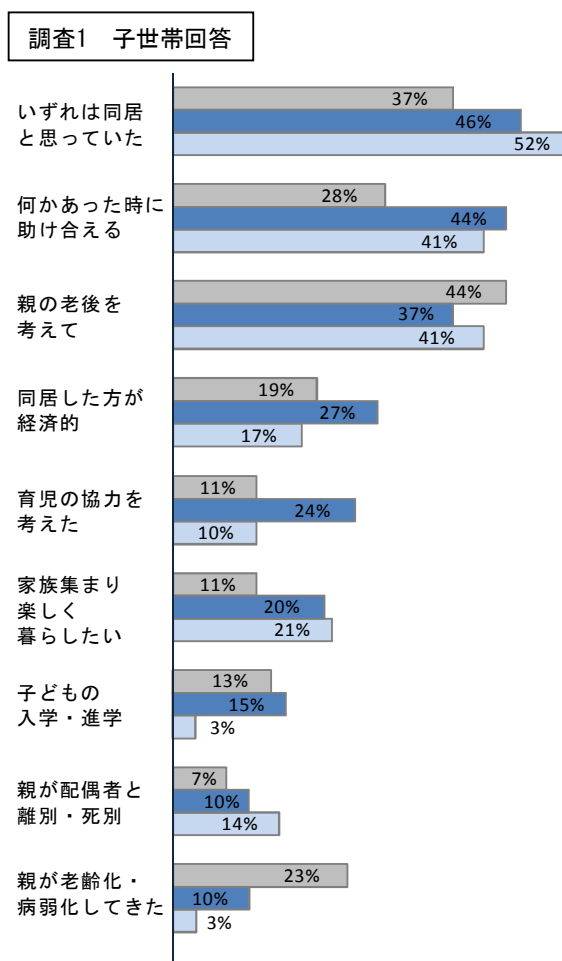
子(親)世帯でほぼ全額：親(子)世帯資金が200万円以下
 均等：子世帯資金と親世帯資金の差が500万円以内
 子世帯主体、親世帯主体：上記以外で資金負担の多い方

■ 育児協力和親の老後への備え以外は自立志向

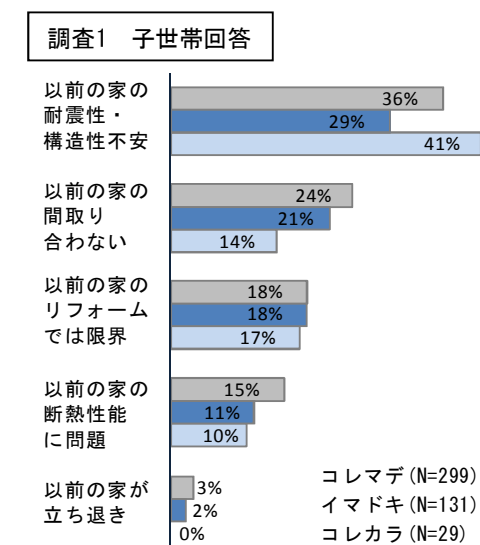
家づくりのきっかけでは、イマドキ子世帯において「いずれ同居」「親の老後」といった項目がトップ3に入り、最初から同居を考えている子世帯が増えていること、「家事の協力」は少なく、「育児」が比較的多く「何かあったら」といった自立を前提としての協力が志向されている傾向も強くあります。また、「経済的」という回答が多いのもイマドキ子世帯の特徴です。

また、建物に関する事として、耐震性、断熱性などの性能面や、間取りなどの機能面の不具合が挙げられています。1970年代の木造の耐震基準が現状の約7割であり、この不安が建て替えのきっかけになっています。

◇家づくりのきっかけ（家族関連）

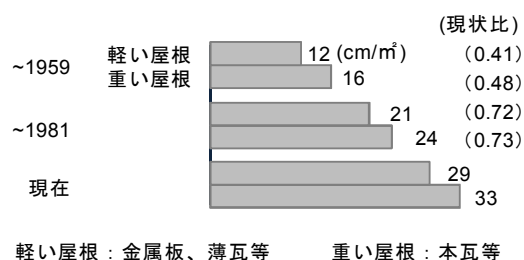


◇家づくりのきっかけ（建物関連）



◇建築基準法における木造の壁量規定長さ

(2階建ての1階)



◇家づくりのきっかけ 自由回答例

兼ねてから、家を建てる時は親と同居すると決めていて、妻にも話していた。子供が生まれ、前の家が狭くなったので、家を建てることを決心し、二世帯とすることを親に相談した。(2008年築、当時36歳)

子世帯夫である自分が同居を提案しました。家賃を払うなら自分の家に払ったほうが良いと思ったし、子供が小学校に入学することになり、その後は引っ越しとなると面倒だと思ったから。(2010年築、当時35歳)

子どもを実家の校区の小学校に通わせなかったから。(2002年築、当時32歳)

◇親世帯のコメント

息子から提案があったとき、親世帯がローン組めるうち、ということで今なら、という考えはあった。親世帯が仮住まいして戻るエネルギーのあるうち、というももあった。若いときは引っ越しが何でもなかったが、年取ると面倒になってくる。(事例B)

3-3. イマドキ親世帯のくらしの実態

インタビュー調査2の訪問調査では、同居生活の実態を目の当たりにしながらお話を伺うことができました。また、調査1のアンケートでは、「同居のコツ」などの自由意見を書いていただいています。その結果わかってきた、イマドキ親世帯の同居スタイルの特徴をまとめてみました。

■親世帯は同居しない前提で人生設計

インタビュー調査2

親世帯は、子世帯が独立した後は自分たちだけで暮らすことをイメージしていて、同居を望んでいた訳ではありません。子世帯からの提案があつてはじめて真剣に検討をしています。

仮に1人になってもここで住み続けるつもりだった。孫の世話は大変だから乗り気ではなかった。父の方が積極的だったので同居してもいいかと。(事例A:母)

別々に住むのが当たり前で、嫁に出したらそれでお終いと思っていた。夫婦2人だけで住むつもりでいた。タワーマンションを物色していたところ、子世帯から同居の話が来てこの土地を購入。(事例C:親世帯父母)

マンション探しの話を知って、いずれは同居と思っていたし、夫は家を建てたがっていたので同居の話をした。(事例C:子世帯妻)

■独立二世帯なら、と思う親世帯

インタビュー調査2

親世帯は、子世帯との共有部分があると双方にとって負担になると感じています。子世帯もそのことによって毎日のくらしが気兼ねなく過ごせ、孫共育と両立しています。

玄関2つにわかれていないと煩わしい。賃貸の可能性も考えた。(事例A:親世帯父)

最初に話し聞いたとき、「全部別が条件」(独立二世帯)と、まず言った。かつて祖母と同居していたが、きれい好きで子供がこぼしたものをすぐに拭いて、泥汚れもすぐ掃除し、戸締まりも子供が出ると気にしてすぐしていた。玄関別がいいと考えた理由にこうした経験があると思う。(事例B:親世帯母)

祖母は遅く帰ってきた家族を「遅かったのね」「まだ帰ってこないの」等言うし、気にしていた。玄関2つだと気にならない。(事例B:親世帯父)

夫はマンションのような感覚で同居という感じではない。子どもは3階ベランダのプールで4人一緒に遊び、家中を境目なく行き来している。(事例D:独立子世帯の妻)

■親世帯を気遣って過度に頼らない子世帯

インタビュー調査2

子世帯は孫の世話を親世帯に頼り切っている訳ではありません。親世帯が孫と過ごす時間が楽しいと思える範囲の負担に収まるように気遣いをしています。

孫はお出かけの挨拶とかで来るし、和室の一角におもちゃがあつて遊びに来る。来る回数は子世帯妻が気を遣って制限してくれていると思う。(事例B:親世帯母)

おばあちゃんは疲れているからとか言い聞かせたりすることはあります。(事例B:子世帯妻)

■イマドキ親世帯の同居のコツは気遣いではなく、干渉しないこと

調査1 親世帯回答

調査1で親世帯が挙げた同居のコツを読むと、コレマデ親世帯では「気遣い」という表現が目立つのに比べ、イマドキ親世帯では「干渉しない」という自立した関係を表す表現が多いことに気がきます。互いの生活リズムを大事にする考え方は、核家族化した第一世代であるイマドキ親世帯の特徴かもしれません。

◇コレマデ親世帯が挙げた「同居のコツ」

親世帯が子世帯に対して気を遣っている。

同居は良かったが、気配りが大変。

嫁との対話が少なく同居の意味がない。

建て替える前は住んでいた家を壊したくなかったが、今は孫に毎日会えるし、雑用もすぐ息子に頼めるから納得している。子世帯側の生活、孫の教育に干渉しないように、そして今使っているキッチン、浴槽、建具等を傷つけたり、汚さないように気をつけている。

◇イマドキ親世帯が挙げた「同居のコツ」

子供世帯の生活を干渉せず、頼まれたことは気持ちよく引き受けてあげる。

完全独立にしてよかった。生活パターンがまったく違うので、気兼ねなく生活できる。

それぞれが独自の人生観や生活感を持っているので、お互いに干渉しないでそっと見守り合うことだと思います。

各人が勝手に過ごせる場所があることが大切。

以前、古い家で親と同居して苦労したので、互いに気兼ねなく過ごせるように、完全に分離した生活を基本として家を建てた。何かあった時は互いに助け合うということで、今のところうまくいっている。妻は孫の世話をすることに生きがいを見出しているところもよい。娘夫妻と同居したのもよかった。娘の夫に対しては、それなりに気を配っている。孫のしつけや教育については一切口を出さないようにしている。

我が家は、月一回のペースで、家族会議を実施しています。(私の子供時代からの習慣)この会議で、全ての問題は、解決していますので、難しい問題や、こじれた問題は、ほとんどありません。

■独立した空間でも交流の場は持つ

調査1 親世帯回答

コレマデ親世帯は高齢期に子世帯のサポートに感謝するコメントが多く寄せられました。

イマドキ親世帯は普段は別々の生活リズムで暮らしていても、一緒に食事するなど、交流する機会はコレマデ親世帯と同様に持っています。集まる機会を楽しむのも核家族化で分散した経験の深いイマドキ親世帯の特徴でしょう。

◇コレマデ親世帯が挙げた「同居のメリット」

嫁が栄養を考えた食事を作ってくれるので、体の調子が良くなって感謝している。また、親戚、ご近所とのお付き合いも滞りなく行ってくれるので安心できる。息子が、掃除や家電品の修理などすぐに対応してくれるので同居して良かった。出来ないことは、相手に任せてしまうことだと思います。

良かった事といえば、食事は週1回共同で行っていることで、鍋料理などは多人数でないと味わえません。家内が風邪で寝込んだときは、息子の嫁がすべて家内の分を担当してくれました。(息子夫婦同居85歳母：共用二世帯)

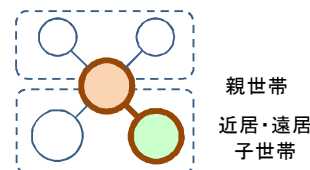
孫が生まれていつも一緒にいること。息子夫婦が健康状態に気を配ってくれて妻は度々が命が助かった。(息子夫婦同居84歳父：共用二世帯)

◇イマドキ親世帯が挙げた「同居のメリット」

いつも一人ではなく、たまに子世帯と一緒に食事したり孫が遊びに来たりして寂しくない。(息子夫婦同居母71歳のみ：独立二世帯)

親世帯で家族全員が毎週日曜日の夕食をいただいている。(息子夫婦同居64歳父：共用二世帯)

3-4. 近居・遠居家族とのネットワーク



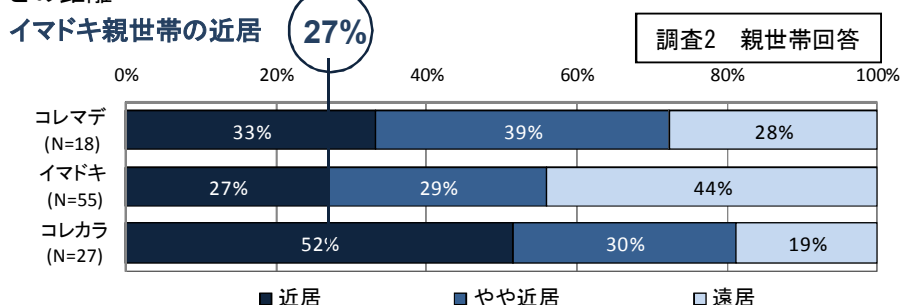
■同居していない子世帯の訪問と宿泊

イマドキ親世帯では近居が少ないにもかかわらず、よく来る率は低くなく、遠居の子世帯とも強い実家ネットワークを持っていると言えます。このため、泊まりがけで来ることが多く、泊まる率は高くなっています。泊まるのは遠居の場合だけとは限らず、やや近居で7割、近居の子世帯でも4割程度泊まる人がいます。泊まる、泊まらないで平均年齢を比較しても差は小さく、高齢になったために泊まらなくなるわけではなさそうです。

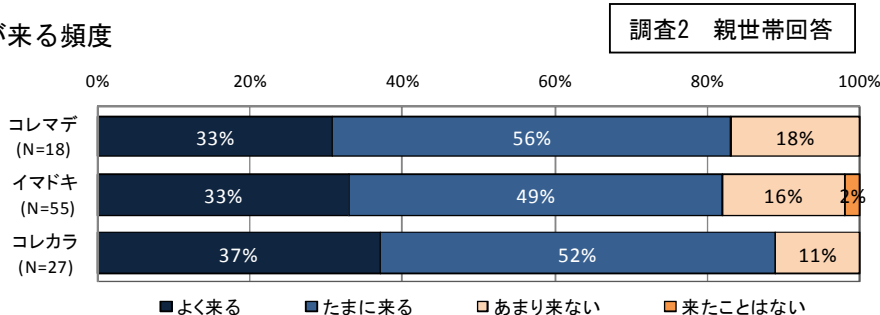
また、近居遠居の子が泊まるかどうか年齢が影響しているかを検証するため、平均年齢を比較してみました。80代を除けば大きな年齢差はなく、年齢の影響は大きくないことが示唆されます。

近居 : 車や交通機関で15分以内
 やや近居 : 同上 1時間以内
 遠居 : 同上 1時間を超える

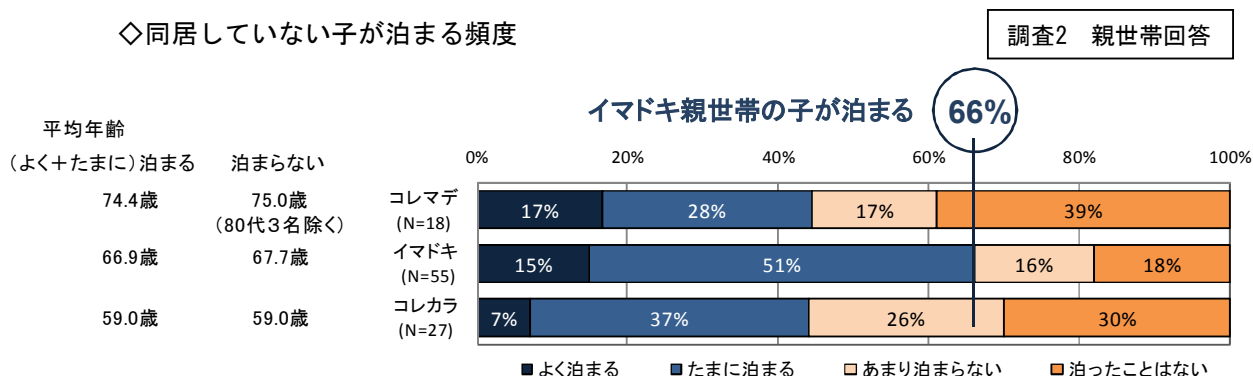
◇同居していない子との距離



◇同居していない子が来る頻度



◇同居していない子が泊まる頻度

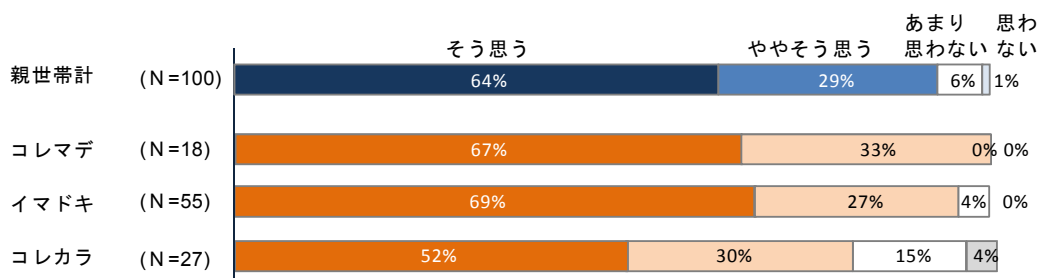


■親世帯と近居・遠居子世帯は繋がっていたい

イマドキ親世帯の9割以上が近居・遠居の子世帯となるべく会いたいと思っています。
 近居・遠居の子世帯も9割近くがそう思っていますが、最上位の「そう思う」の回答率は娘の方が高くなっています。

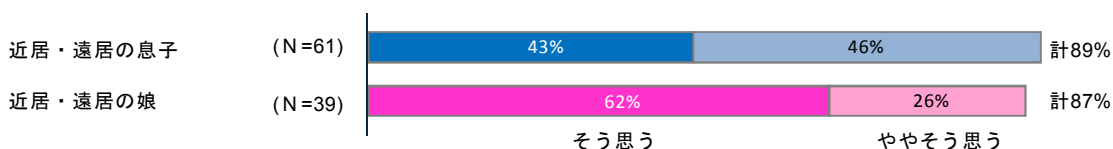
◇近居・遠居の子ともなるべく会いたいと思うか

調査2 同居親世帯回答



◇親となるべく会いたいと思うか

調査2 近居・遠居子世帯回答



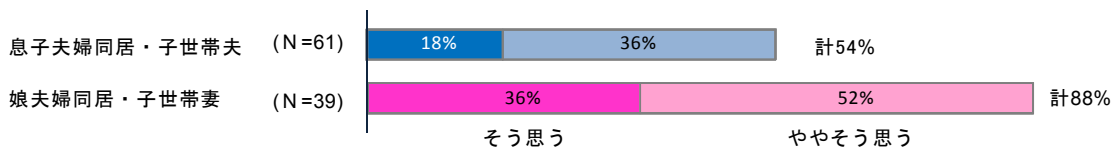
■娘の方が実家ネットワーク志向が強い

同居子世帯の近居・遠居の子世帯となるべく会いたいと思う率は、息子夫婦同居で5割強、娘夫婦同居9割弱と大きく異なっています。娘夫婦同居の方が、近居遠居の兄弟姉妹との結びつきが強いと言えます。

近居・遠居の子世帯から見て、実家を訪れる際のためらいや遠慮も、半分程度の人を感じていますが、女性の方が「感じない」人が多い結果となっています。

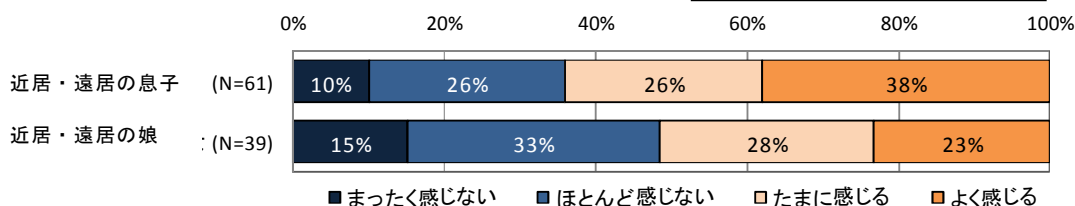
◇近居遠居の兄弟姉妹となるべく会いたいと思うか

調査2 同居子世帯回答



◇実家を訪れる際のためらいや遠慮

調査2 近居・遠居子世帯回答



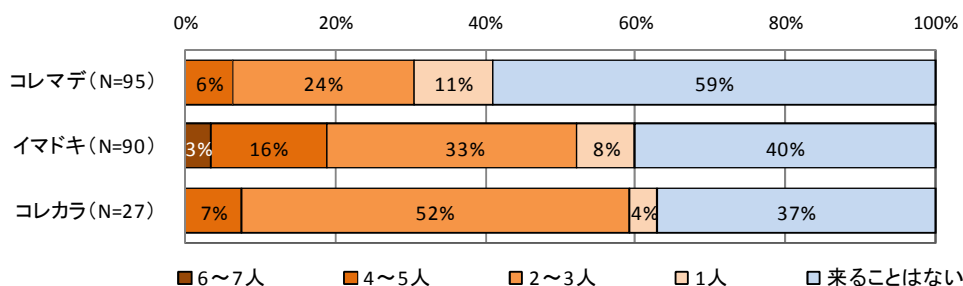
■近居遠居の子世帯全員が泊まるときが最も人数が多い

ヘーベルハウスの居住者で泊まるかどうかと、泊まる時の最大人数を調べてみました。泊まる率はコレカラ世代で大幅に高くなった他は調査2と似た傾向を示しています。

泊まる最大人数では2-3人という回答が最も多く、次いでイマドキでは4-5人が多くなっています。どういう人が泊まりに来ているのかの自由回答では、孫と近居遠居の子世帯家族が多く挙げられていました。近居遠居子世帯の家族全員が泊まるときが最大人数なのではないかと推測されます。

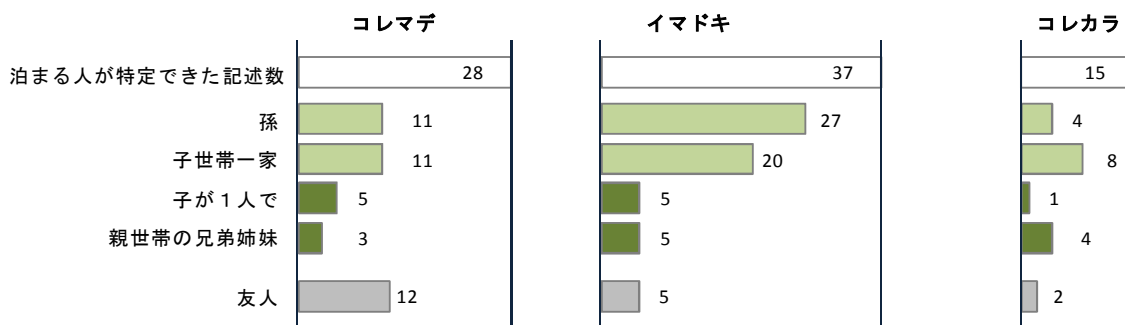
◇宿泊する人数

調査1 親世帯回答



◇宿泊する人—自由記述より拾い出した数

調査1 親世帯回答



■子世帯の親も来やすいように

同居子世帯には息子夫婦同居の場合は妻の親、娘夫婦同居の場合は夫の親も訪れます。そうした配慮も求められるところです。

インタビュー調査2

家内の母が以前の住まいにも近居でよく来ていたので、玄関も分かっているし引き続き遠慮なく来て欲しいとお願いした。来にくくなったりと嫌だと思って、何回か来て頂いている。(事例B: 息子夫婦同居の子世帯夫)
私からも絶対遠慮しないで下さい、とお願いして。(事例B: 親世帯母)

子ども部屋には連休中に弟一家が泊まりに来ていた。普段は子どもの遊び場になっている場所。(事例C: 娘夫婦同居の子世帯夫)

コラム:東大生の同居と実家継承の意識

イマドキの学生は親との同居や実家の継承についてどのように考えているのでしょうか。東京大学教養課程（専門課程進学前）の学生に聞いてみました。

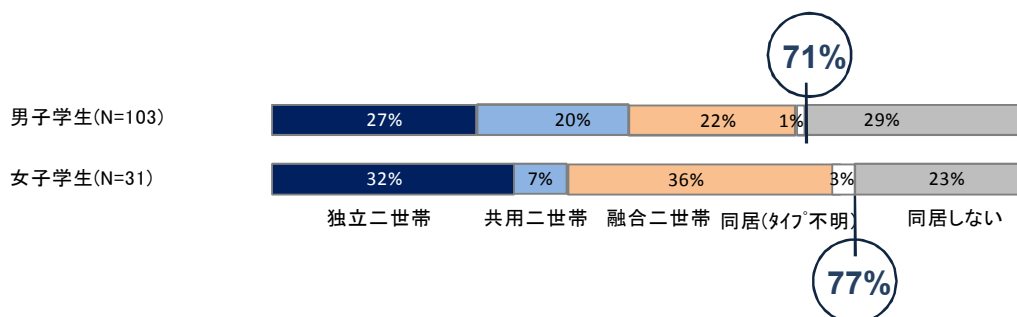
■対象:東京大学教養学部1-2年生 134名(男103名 女31名)

■実施日:2013/5/24

■15年後の同居意向

男子の71%、女子の77%が同居したいと答えました。二世帯のタイプでは3つのタイプに分散したのになら、女子は独立と融合(主キッチン共用)に二分されました。

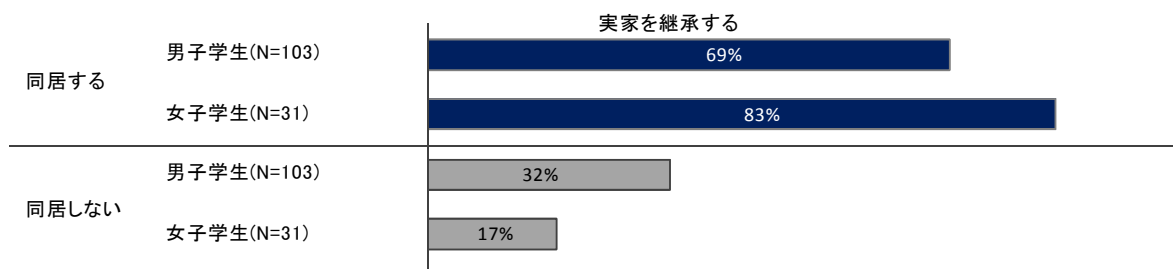
◇あなたの実家を、15年後に建替えるorリフォームして、親が住み続けるとします。あなたが同居・別居ともに可能であったとき、同居しますか。またどのような二世帯住宅(独立・共用・融合二世帯など)を望みますか？(自由記述)



■実家継承意向

同居したいと答えた学生は実家継承の意向が強く、男子の69%、女子の83%が実家を継承したいと答えました。実家を継承したい理由としては土地や家への愛着が多く、中でも近隣環境への高い評価が目立ち、同じ環境を自分の子にも与えたい、という考え方につながっています。一方で継承したくない理由としては親から離れ、自分で住む環境を選択したいという意向が見えます。

◇あなたの実家を、将来受け継ぎ、その家に、または建て替えて住みたいですか。



◇実家を継承したい理由

土地や家への愛着 70%
立地がいい 37%
経済的に有利 19%

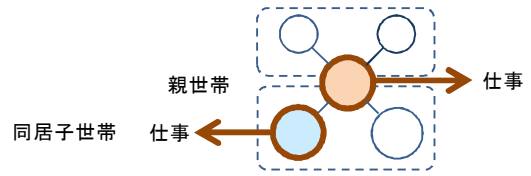
地域の人のつながり 13%
自分の育った環境を子供にも 13%

◇実家を継承したくない理由

自ら新しい住まいや環境を創りたい 42%
マンションだから 30%
家の造りが生活に合わない 30%

定住意識が無い 男のみ 12%
親の影響から離れたたい 女多い 25%
配偶者に配慮 男のみ 7%

3-5. 仕事のネットワーク



仕事のネットワークには、勤務地へ通勤して参加している会社ネットワークと、地域に根差した様々な活動が行われる実家ネットワークに含まれるものとの両面があります。定年、再就職、そしてリタイアといったプロセスを経て、会社ネットワークを離れて地域に戻ることもあるでしょう。今回の調査ではその実態をつかむには至りませんでした。イマドキ親世帯には働き続けたいという高い意欲が見られます。

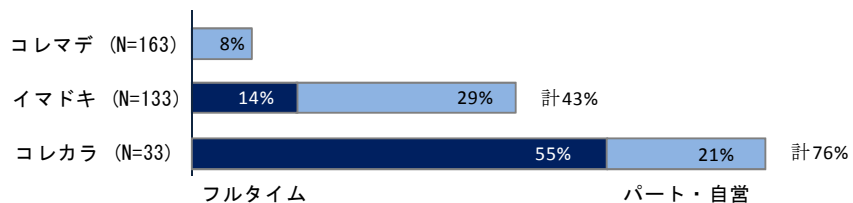
■ 子世帯妻の就業率も若いほど高い

親世帯の父は、イマドキ、コレカラで、就業率が高く、リタイア前後の年齢層を反映しています。親世帯の母にも似た傾向があります。

子世帯の妻も、イマドキ、コレカラでフルタイムの就業比率が高くなっており、若い世代ほど育児期にも就業を継続しており、二世帯同居では、家族みんなですべて働くという形になってきています。

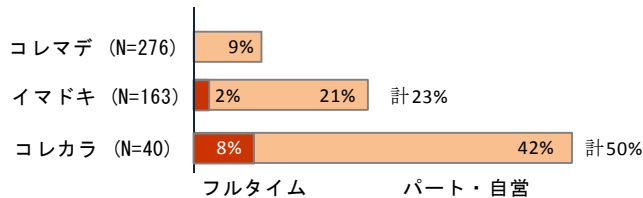
◇ 親世帯父 就業比率

調査1 邸別回答 (父がいる世帯のみ)



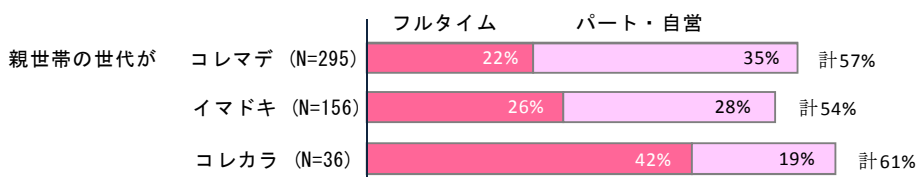
◇ 親世帯母 就業比率

調査1 邸別回答 (母がいる世帯のみ)



■ 子世帯妻 就業比率

調査1 邸別回答 (妻がいる世帯のみ)

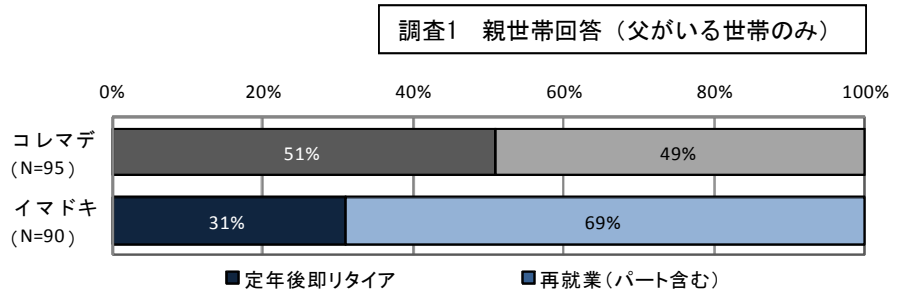


■イマドキ親世帯の就業継続意欲は高い

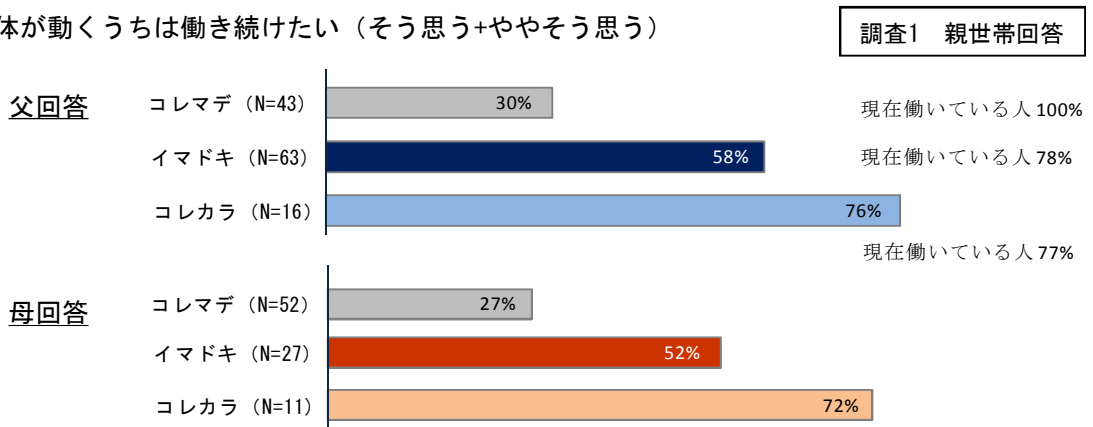
定年を一度迎えた親世帯父がその後再就業したかどうかを見ると、コレマデと比較しイマドキの親世帯の再就業率が約7割と大幅に高くなっています。

親世帯の父母ともに、「体が動くうちは働き続けたい」と回答する人が、イマドキ、コレカラで半数以上おり、コレマデと大きな差があります。

◇定年後の働き方



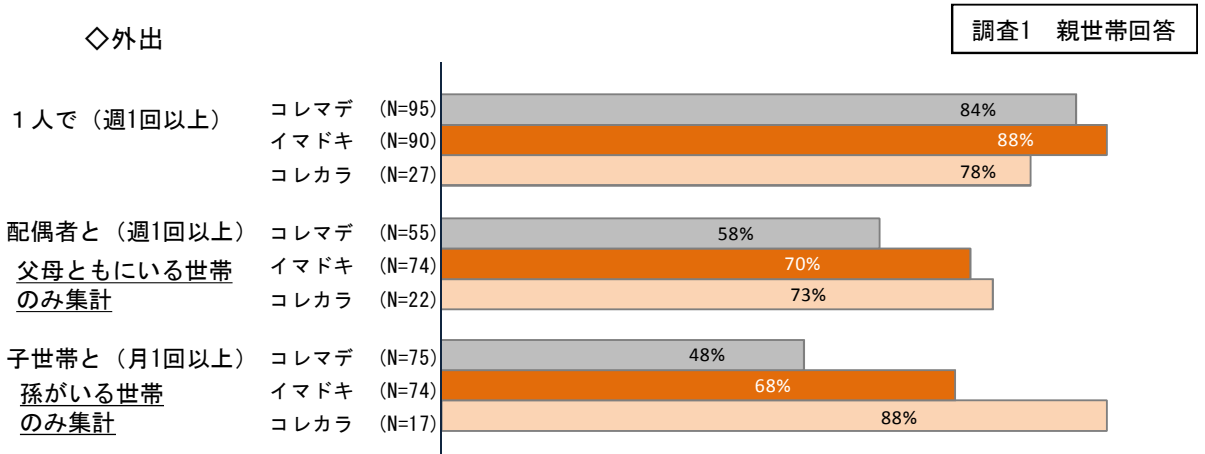
◇体が動くうちは働き続けたい（そう思う+ややそう思う）



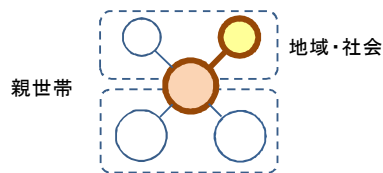
■親世帯の外出は若いほど誰かと一緒

外出の回数は世代によらず頻繁ですが、若いほど夫婦での外出、子世帯との外出の率が高まります。

◇外出



3-6. 地域・社会とのネットワーク



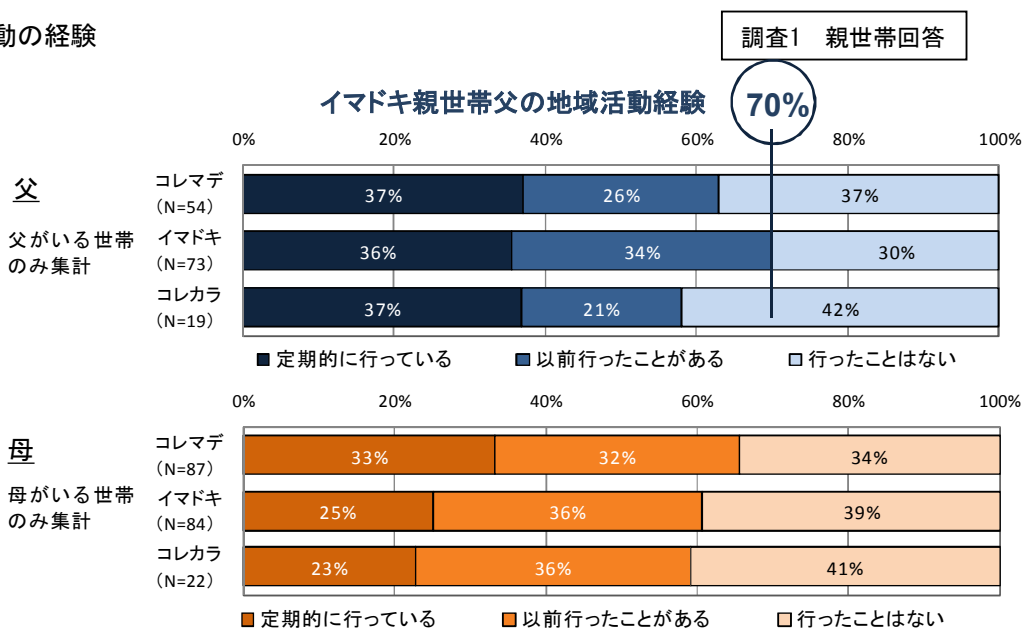
■イマドキ親世帯の父は地域活動によく参加している

地域活動への参加経験では、イマドキ親世帯がコレマデ親世帯を上回りました。仕事に通勤していると地域活動に参加しにくいと考えられ、就業率の高さを考慮すればイマドキ親世帯の父は、かなり地域活動に熱心と言っていいと思います。

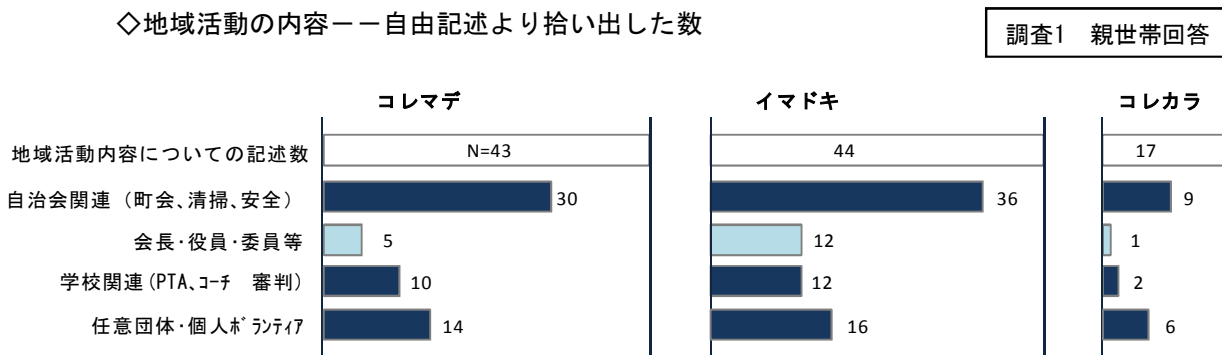
母の方は、若いほど次第に地域活動経験が下がっており、就業率とは逆傾向を示していますが、就業率が約5割あるコレカラ親世帯の母でも、コレマデ親世帯と比べて数ポイント程度低いだけで、約6割は参加経験があります。

活動内容についての記述を分析すると、イマドキ親世帯は自治会関係の活動が多く、役職にも多く就いている傾向が見られます。また学校関係、老人ホームや個人的ボランティアの参加者も多くいました。

◇地域活動の経験



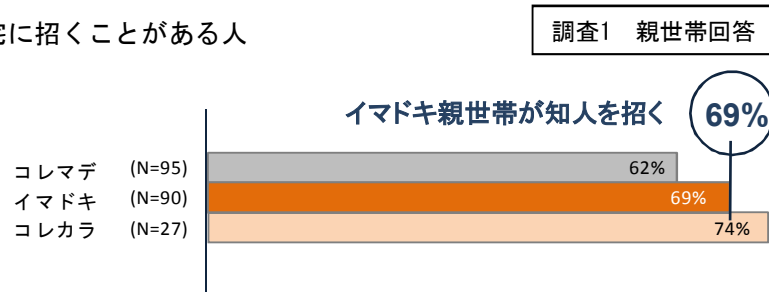
◇地域活動の内容——自由記述より拾い出した数



■知人を家に招く人はイマドキーコレカラ親世帯に多い

知人を自宅に招く人は若い世代ほど多くなっています。70年代以降の核家族住宅では接客を重視してきませんでした。再度人を招くというニーズが復活して来ていると言えるでしょう。

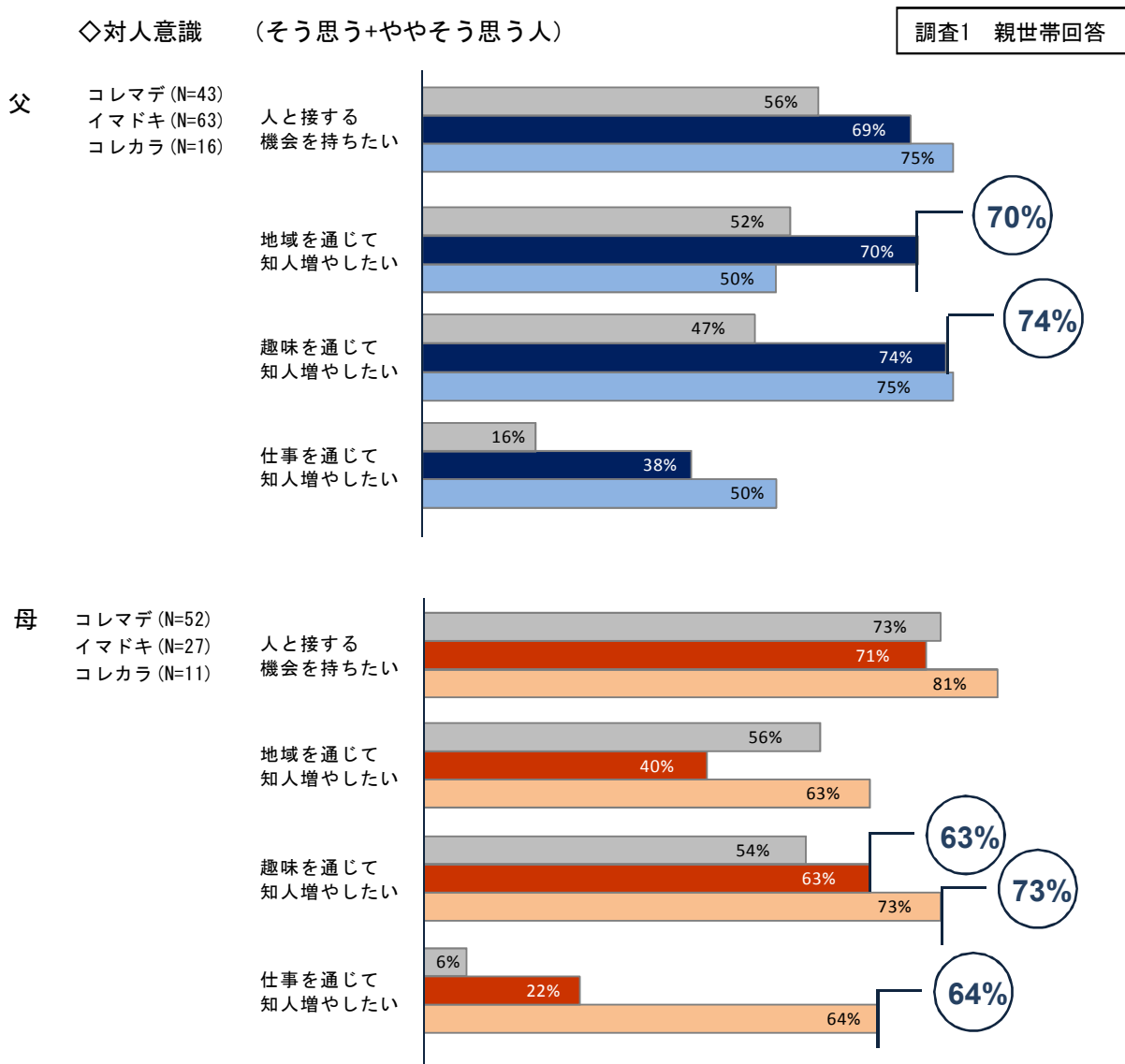
◇知人を自宅に招くことがある人



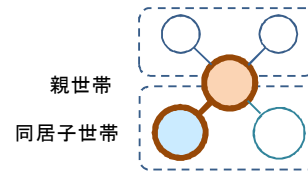
■イマドキ親世帯の父は地域、父母共通では趣味を通じた人とのつながりを求める

人と接する機会を持ちたい、という意識が高い中で、どこにその機会を求めるかに差が現れました。イマドキの父は地域志向が強く、コレカラの母は仕事を通じて機会を得ようとしています。趣味は男女問わずイマドキ、コレカラの人と接する手段として意識されています。

◇対人意識 (そう思う+ややそう思う人)



3-7. 孫とのネットワーク



■孫との関係を楽しむイマドキ親世帯

イマドキ、コレカラでは、孫の世話は楽しいと感じる人が多くなっています。孫と関わることで、孫の成長を見る楽しみや生活への張り合いを感じているようです。

実際にしている孫の世話は、食事や入浴などが上位ですが、イマドキ親世帯の特徴として保育園、お稽古事の送迎や勉強宿題を教えるなどが高い事が挙げられ、日常的な孫との関わりが推測されます。

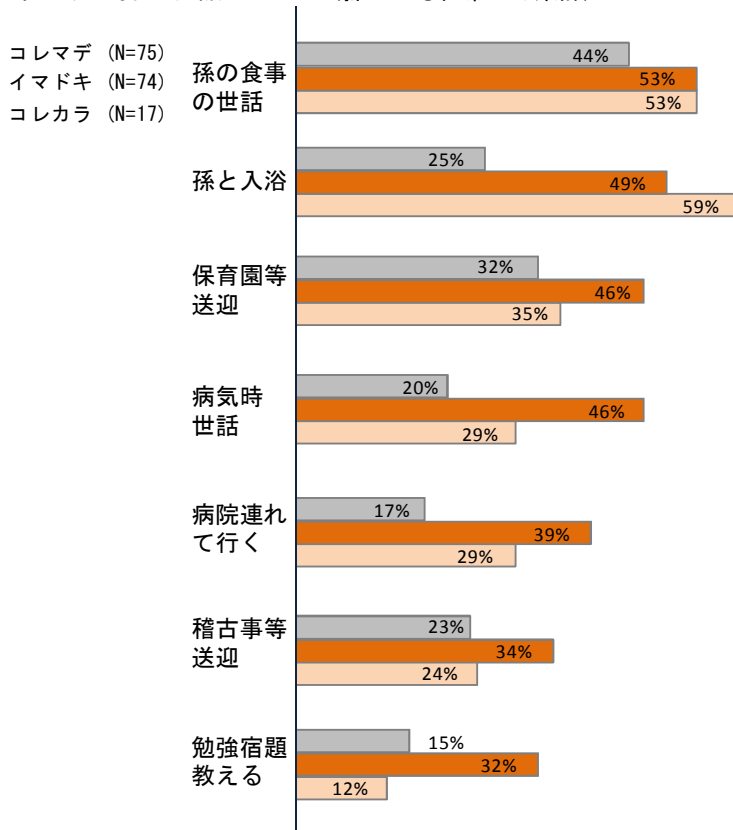
◇孫の世話は楽しい (孫がいる世帯のみ集計)

調査1 親世帯回答



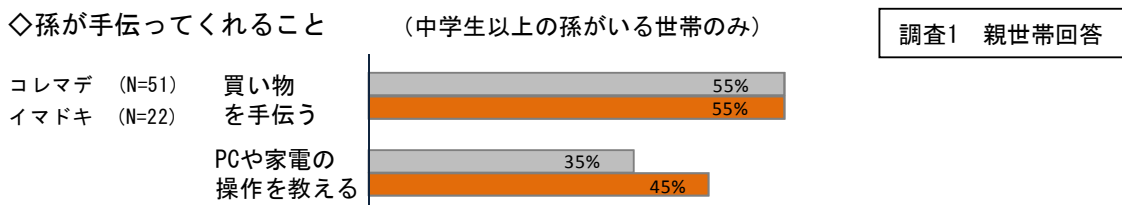
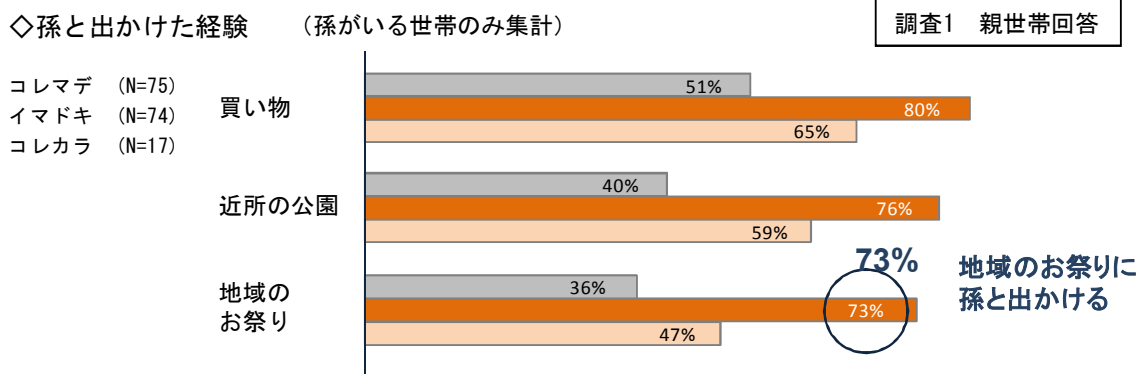
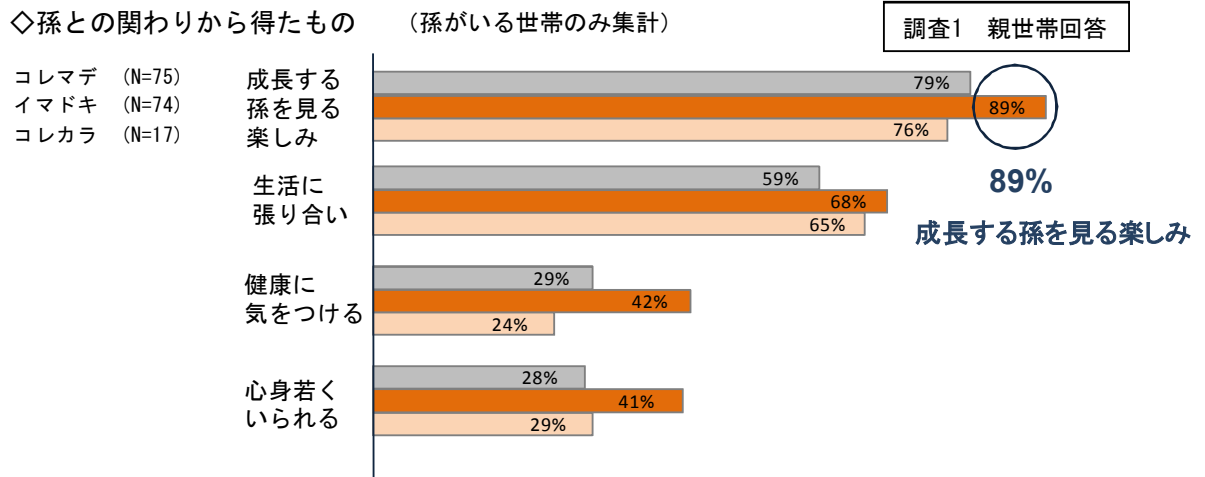
◇親世帯がする孫の世話 (孫がいる世帯のみ集計)

調査1 親世帯回答



■孫の世話は親世帯にとってもプラスの効果

イマドキ親世帯では、孫との関わりの中から楽しみを得て、活動的になる傾向が見られます。孫が成長すると孫に助けられるシーンも出てきます。



インタビュー調査2

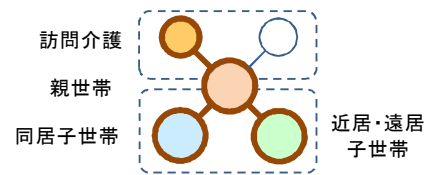
孫の世話で手を貸せる時は貸す。1/10でも返してくれればよい。若い気をもらっている。(母:事例A)
子供たちを育てるのに関わってこなかった反省で孫と一緒にいたい。(父:事例A)

親世帯にとって孫が居た方が、生活に華があるでしょ。それで将来親の面倒も見られる。現状で一番メリットあるのは私。子供と2人だけの生活では精神的に参っていたと思う。仕事に行くこともできる。(娘夫婦同居子世帯妻:事例C)

一緒に居ると不満もあるけど、実はそれが幸せなのではと考えるようになった。朝早くから孫の世話したり、自由時間も減る。でも夫婦2人では刺激がない。飲みに行って孫の世話が大変だと言うと回りから幸せだと言われる。そういうものかと思うようになった。(父:事例C)

同居は孫にとってもいい。親世帯はどうしても甘く、孫の逃げ場になりストレス発散になっているはず。ママ機嫌悪い、とかいってやってくる。(父、母:事例C)

3-8. 介護のネットワーク



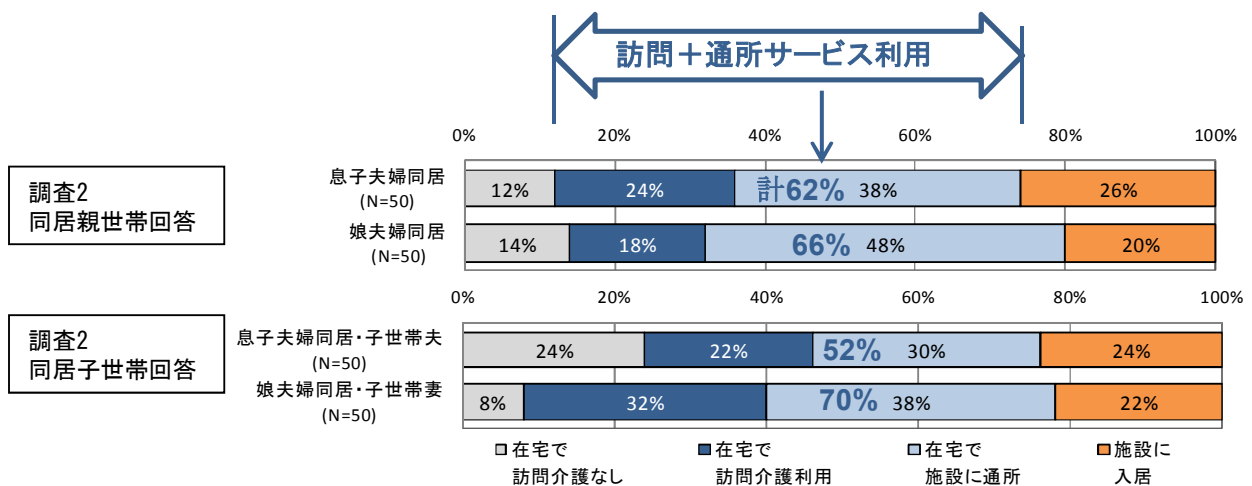
同居によるメリットとして社会的に最も期待されているのは介護時の見守りではないでしょうか。当研究所が2007年に実施した「親子同居スタイル・多様化の実態」の調査では、親同居を終えた子世帯は7割以上が介護を経験していました。

都市における高齢化への対応として、大規模な施設の建設は地価の高さから困難です。そのため、地域の小規模多機能型の介護施設と在宅介護の組合せが現実的的回答とされています。このような状況の中で、親世帯、同居子世帯、近居・遠居子世帯の三者がどのような意識を持っているのかを探りました。

■同居家族だけではなく、通所介護や訪問介護との組合せが一般化

介護が必要になったとき、同居家族だけ、という回答は少なく、5-7割が在宅で訪問介護、通所介護などのサービスを使いながらの介護をイメージしています。特にこの割合は親世帯母、子世帯妻といった介護の担い手になりがちな女性で多くなっています。施設へ、という回答は約2割あります。

◇介護が必要になったときの介護サービスへの意識

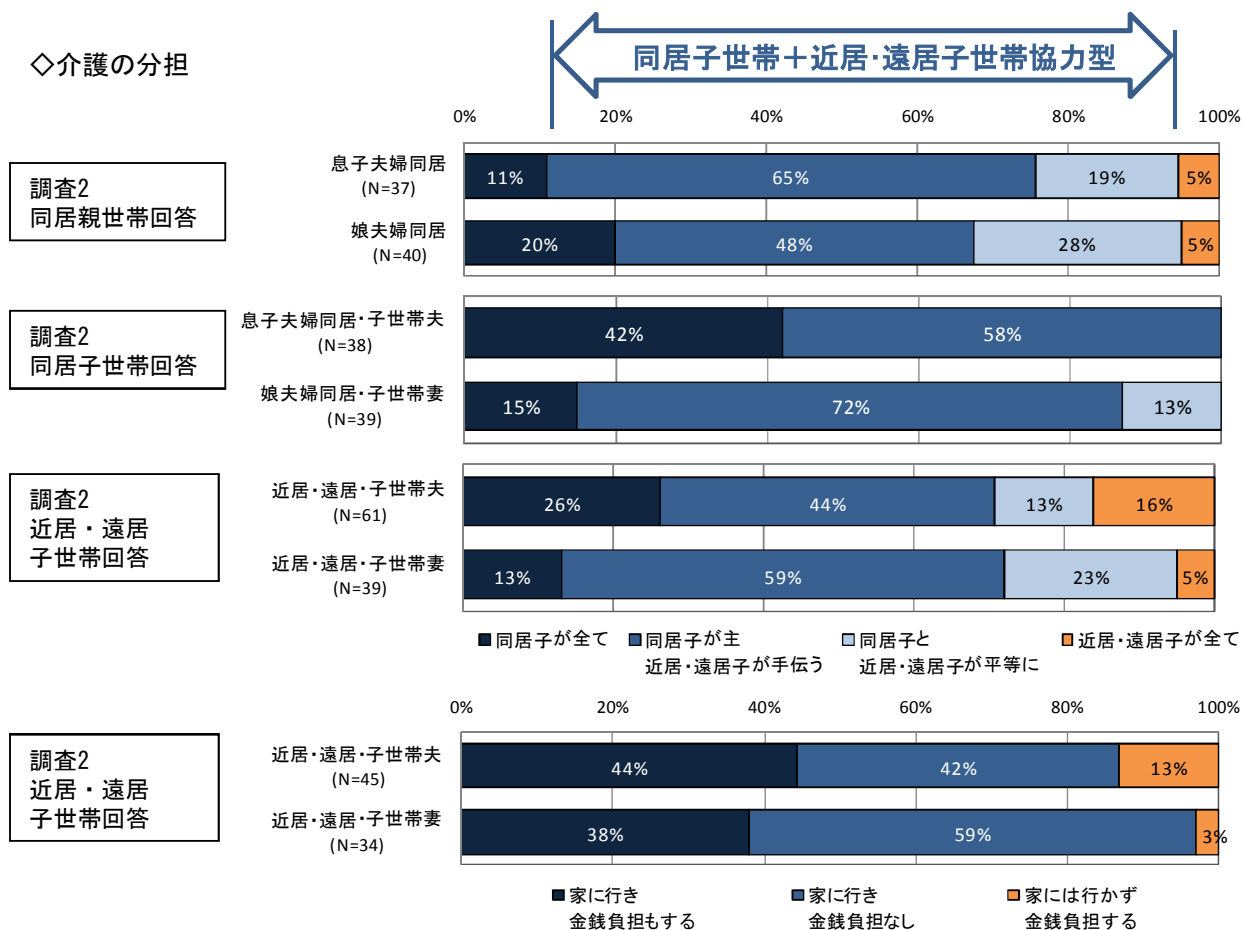


■同居子世帯が主体ではあるが、近居・遠居の子世帯も介護に参加

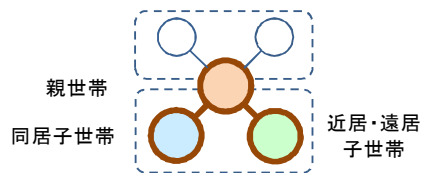
介護は全て同居子が、という考え方は少数派です。親世帯は約7割が同居子に加え、近居・遠居の子が参加して皆で介護をすることを望んでいます。同居子世帯では、息子には自分たちだけで、という回答が4割強あり責任感を感じさせますが、娘の場合は8割以上が近居・遠居の兄弟姉妹の参加を望んでいます。

近居・遠居の子世帯では息子娘による考え方の違いは同居子世帯と同傾向ですが、さらに自分たちが参加しようという意欲が高く、息子の場合でも7割以上が手伝おうとしています。金銭的負担についても約4割がすると回答しています。

◇介護の分担



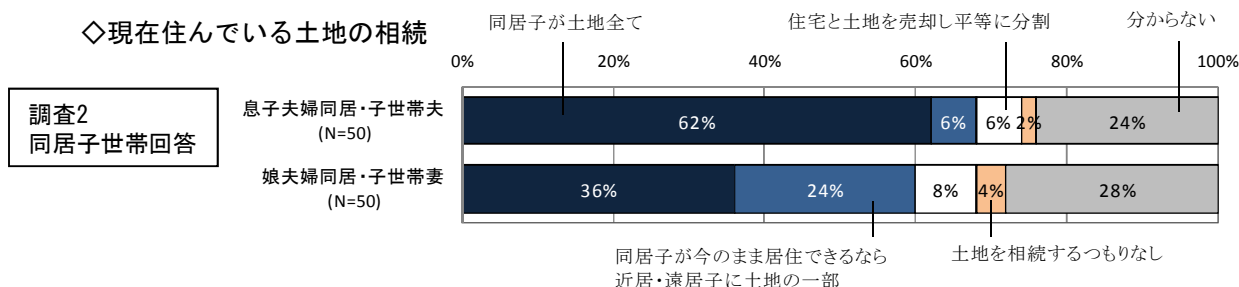
3-9. 二世帯住宅の相続についての意識



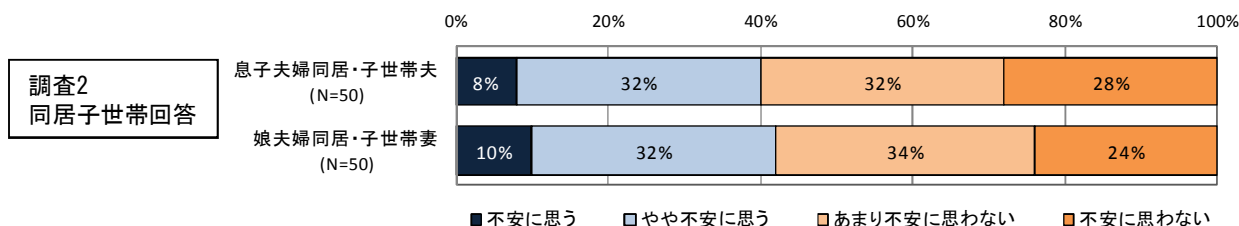
■同居子世帯の4割は相続後も住み続けられるか不安

同居子世帯で大半は土地を相続して住み続けるつもりですが、わからない、という回答も約1/4あります。娘夫婦同居では土地の一部を分割してもよいという回答が多いのが特徴的です。相続時の兄弟姉妹との合意について、約4割が不安を持っています。

◇現在住んでいる土地の相続



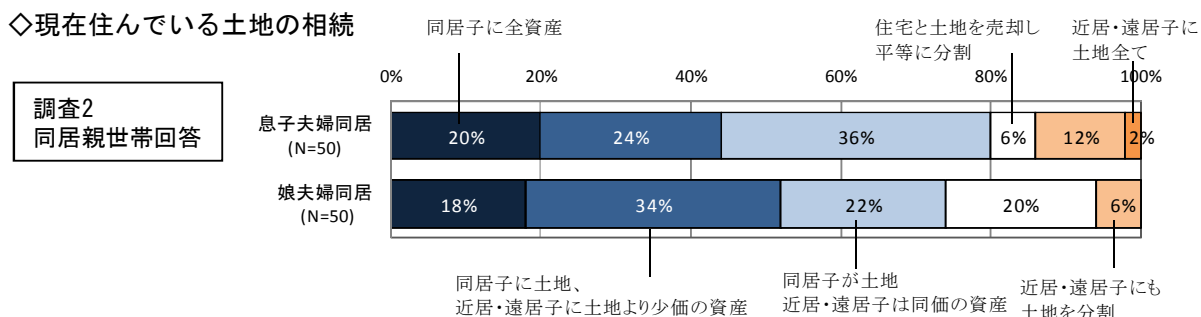
◇現在住んでいる土地の相続をする場合に兄弟姉妹との合意は



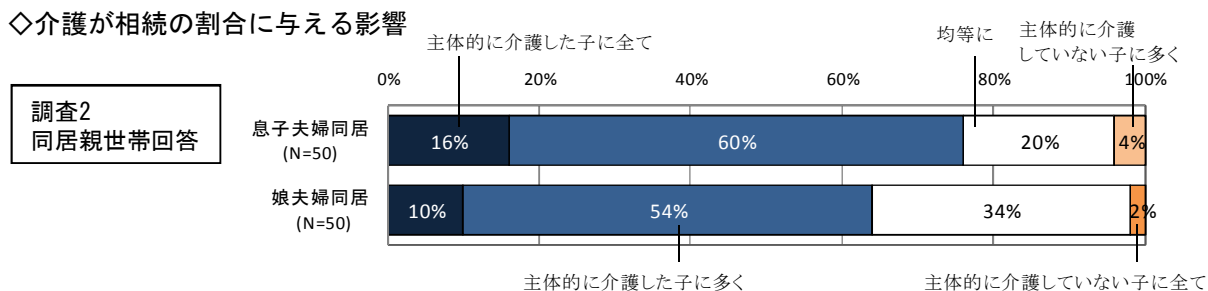
■親世帯は介護の主体となったら相続時財産も多くすべきと回答

親世帯の約7割は同居子世帯に土地を相続させ、近居・遠居の子世帯にはその他の資産を渡すつもりです。介護が相続配分に与える影響は大きく、約7割が介護した方に多くと回答しています。特に息子夫婦同居の場合にこの傾向が強く出ています。

◇現在住んでいる土地の相続



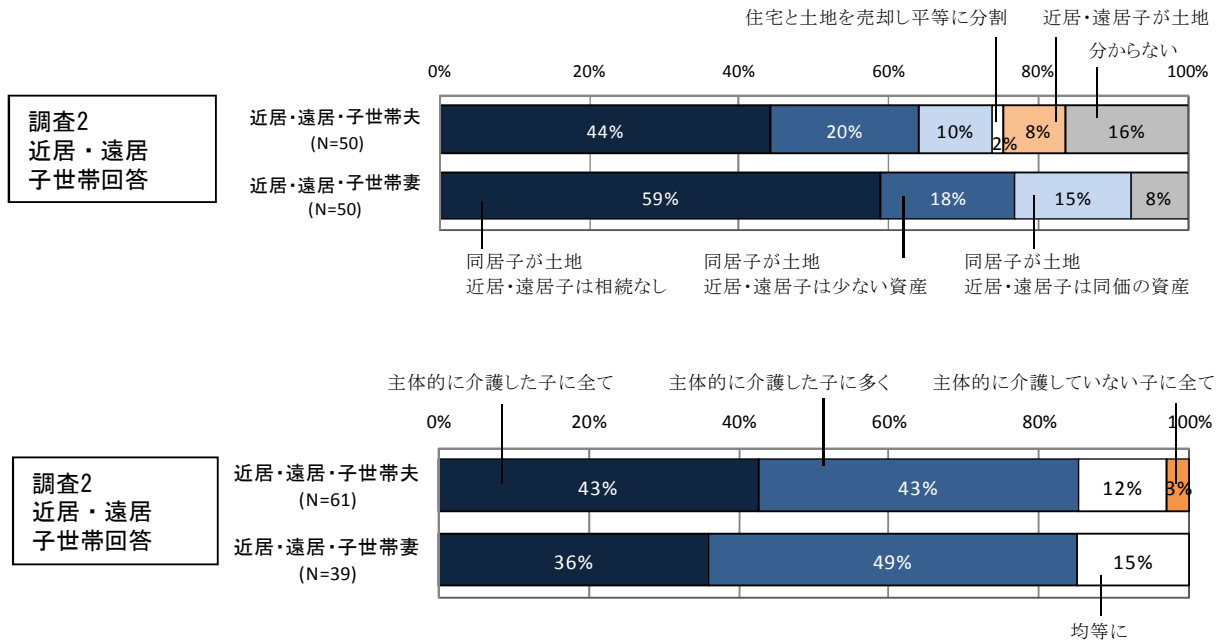
◇介護が相続の割合に与える影響



■ 近居・遠居子世帯は約8割が同居子世帯が土地継承と納得

近居・遠居子世帯は、両親と兄弟姉妹が同居している土地は、同居の子世帯が継ぐという考えが男性の74%、女性の92%を占めています。男性の64%、女性の77%が自分の資産配分がないか、少なくなる事をイメージしています。

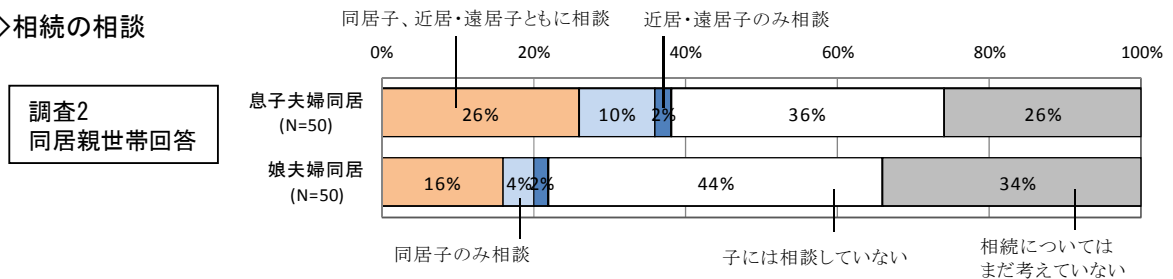
男女を通じて、介護した子に多く、という回答が8割を超えており、同居子世帯の相続が多いのは、介護を主体的にしていることが前提条件としてあるように思えます。



■ 同居に当たっての相続に関する相談

同居にあたって、同居子世帯と近居・遠居子世帯の両方に相談した親は息子夫婦同居で26%、娘夫婦同居では16%しかいません。事例にあるように同居段階から相続をイメージしているのは未だ少数派です。

◇ 相続の相談



◇ 兄弟姉妹との相談事例

インタビュー調査 2

最初に同居の提案を聞いたとき、妹弟にも相談して了解して貰わないと、ということ呼んだ。妹弟とも大賛成でこれで安心できると喜んだ。妹などは子世帯妻に「本当にいいんですか」と言っていて、相続放棄の書類作りましょうか、という話が出たほど。(息子夫婦同居: 事例B)

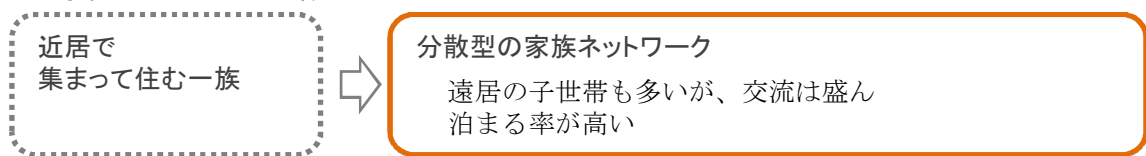
■親世帯の古いイメージとイマドキ親世帯の実態

調査を通じて、イマドキ親世帯の実態が浮かび上がってきました。一般的に思われている親世帯のイメージとの対比で、それらを以下のように整理してみました。

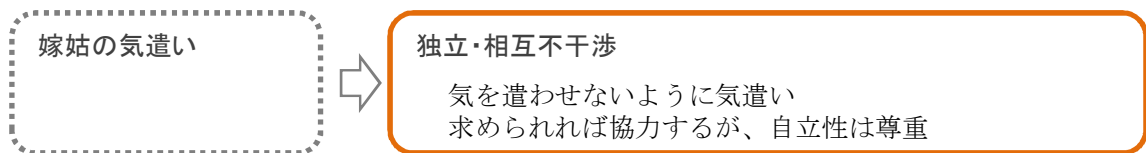


■くらし方のイメージと実態

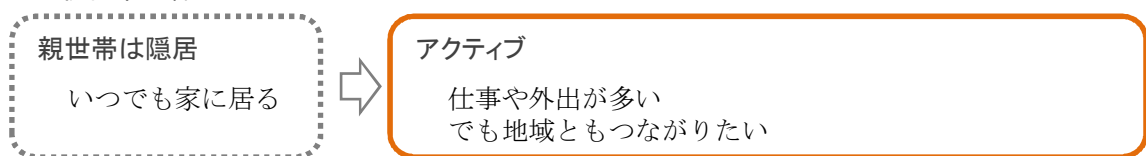
■家族ネットワーク全体



■親世帯-同居子世帯の関係

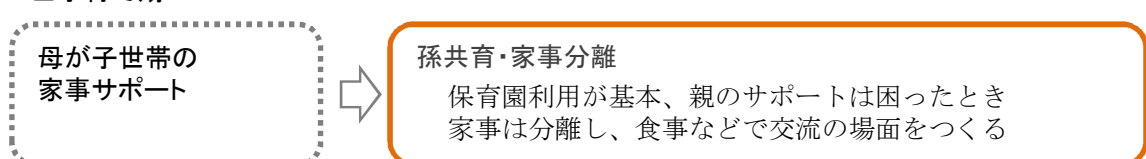


■親世帯の暮らし

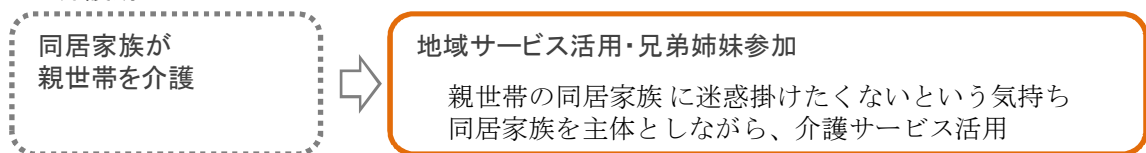


■親子協力関係のイメージと実態

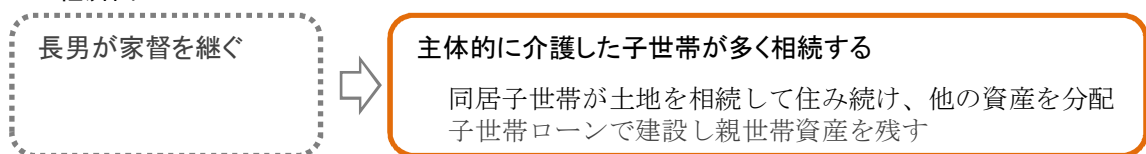
■子育て期



■介護期



■経済面



第4章 イマドキの二世帯住宅

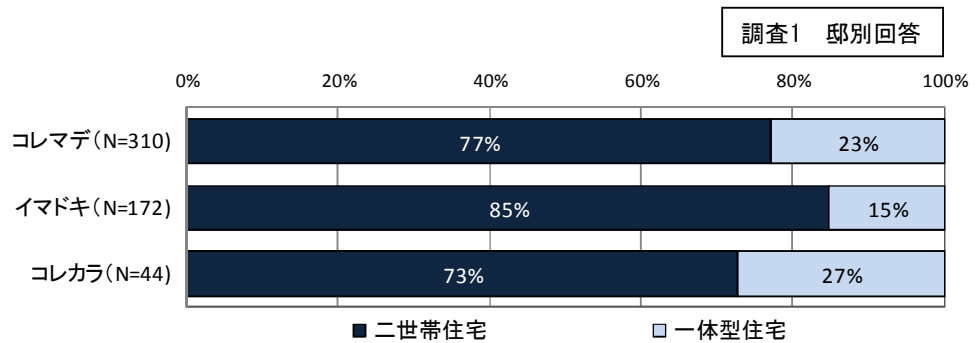
4-1. 二世帯住宅のタイプ

■イマドキ二世帯は独立志向が強い

イマドキ親世帯は他の世代に比べてキッチンが2つある二世帯住宅の比率が高く、二世帯住宅のタイプでも玄関が2つあり完全に分離した独立二世帯住宅の比率が高くなっています。分離度が低い傾向がある娘夫婦同居の比率がコレマデ親世帯よりも高いにも関わらず、独立二世帯が多いことはこの世代の強い独立志向の表れと考えられます。

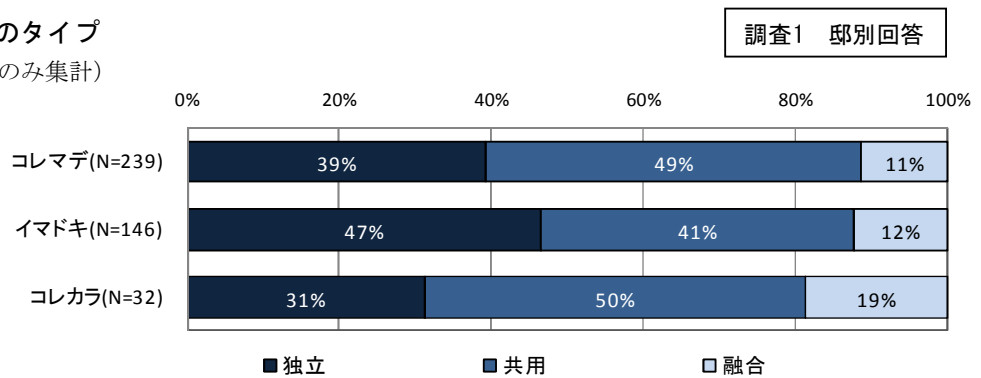
コレカラの親世帯では一転して、一体世帯住宅が多く、融合二世帯住宅の比率が高くなっていて世帯間の空間が共用部分が多い建物の比率が高いことが特徴的です。

◇住宅形式

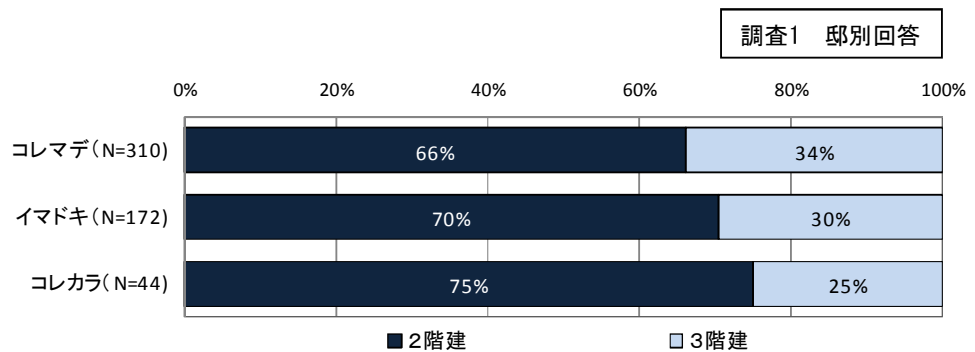


◇二世帯住宅のタイプ

(二世帯住宅のみ集計)



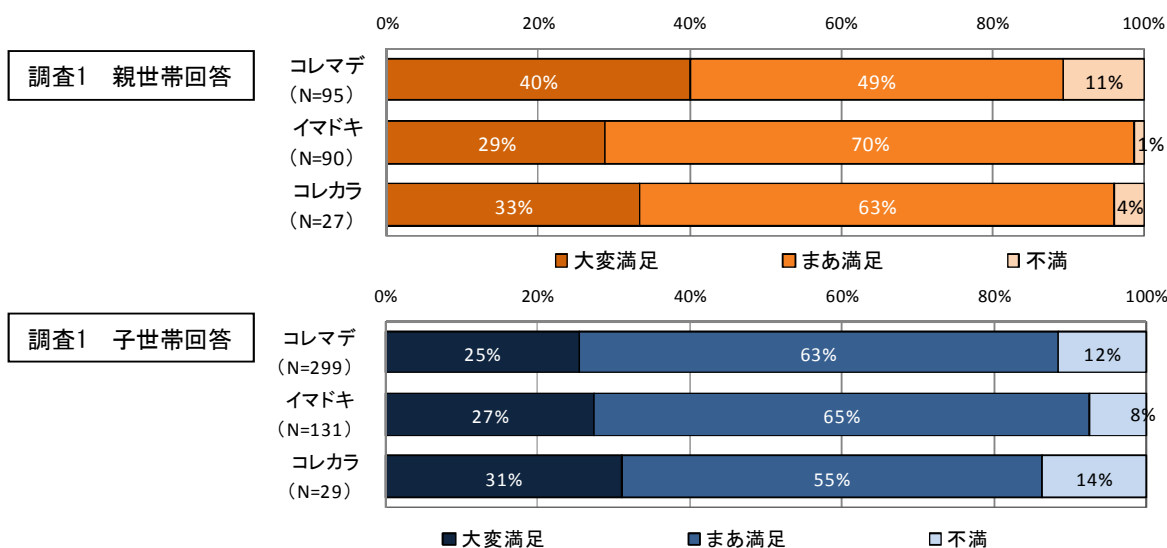
◇階数



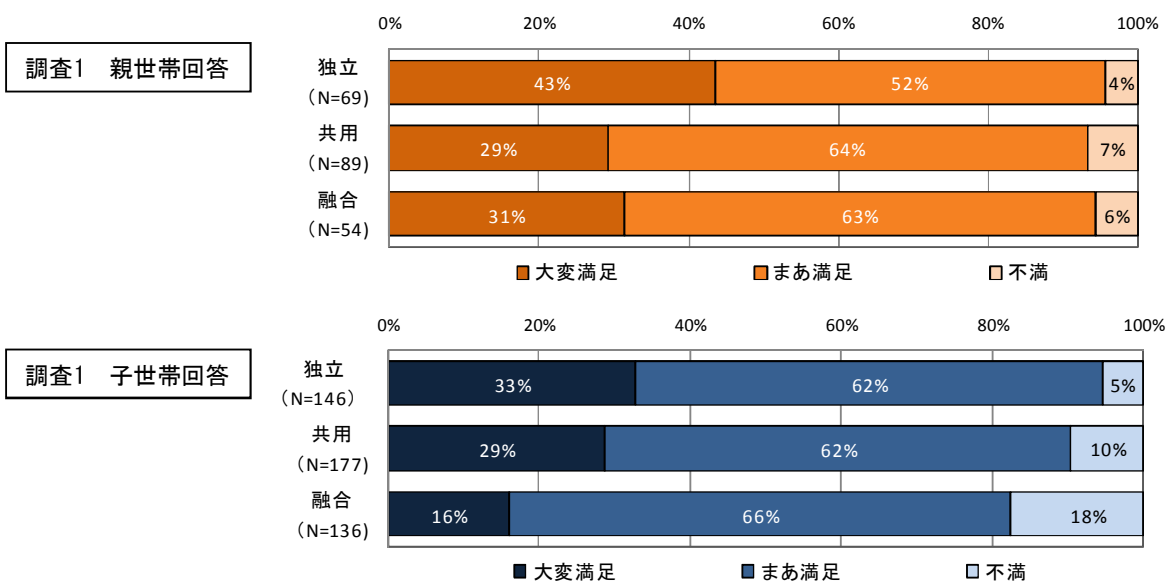
■同居生活の満足度は高い

概ね9割が大変満足またはやや満足と回答しており、同居の満足度は総じて高いです。しかしイマドキ親世帯では満足度の高い独立二世帯の比率が高いにもかかわらず、最上位の「大変満足」が若干少ない傾向が見られます。これ以降の程度の割合で「大変満足」の回答があるかをより高い満足度を得るための指標として検討を進めます。

◇同居の満足度



◇二世帯住宅のタイプと満足度



4-2. 二世帯の生活リズム

■独立二世帯は生活リズムのずれに対応している

二世帯の生活リズムのずれを把握するために「家族の生活時間」(共働き家族研究所2009)と同様の手法で生活リズムの分析を行いました。

夕食時間早い遅いの指標となる19時前、21時以降の夕食率を調べると、親世帯はリタイア後は夕食が早くなり、子世帯夫が遅いためずれが大きくなっています。子世帯妻は孫と連動して長子小学生以下では早くなり、孫が成長すると遅くなります。

孫が小学生以下では、夕食時間において、親世帯と子世帯妻と孫の生活リズムが早く、子世帯夫がずれる、と言えるでしょう。孫が中学生以上になると、子世帯妻と孫の生活リズムが全体に遅くなります。

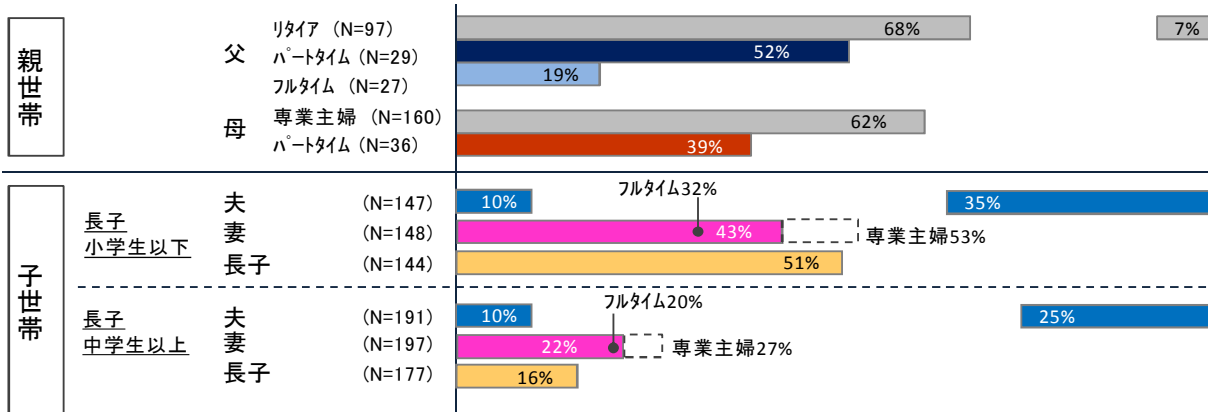
建物分離度と夕食時間のずれとの関係を見ると、夕食別々の独立二世帯はずれが大きく、夕食一緒の融合二世帯・一体世帯ではずれが小さい傾向が見て取れます。独立二世帯ではそれぞれ世帯別にマイペースで過ごすため、生活リズムのずれに対応しやすいといえます。

調査1 親世帯回答・子世帯回答

◇19時前に夕食する比率

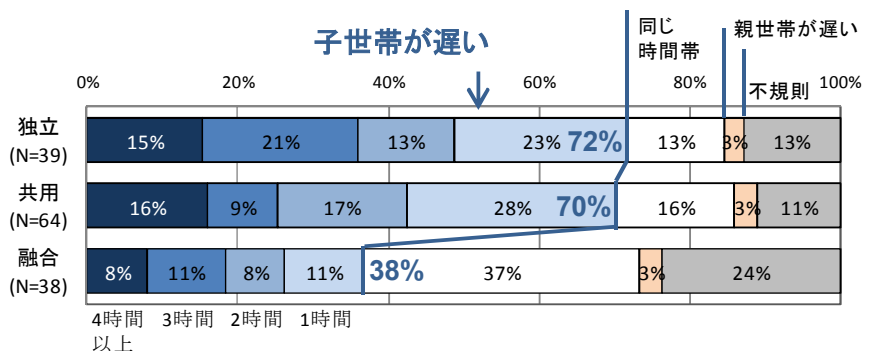
◇21時以降に夕食する比率

(父・夫のみ作図)



◇夕食時間のずれ

調査1 邸別回答

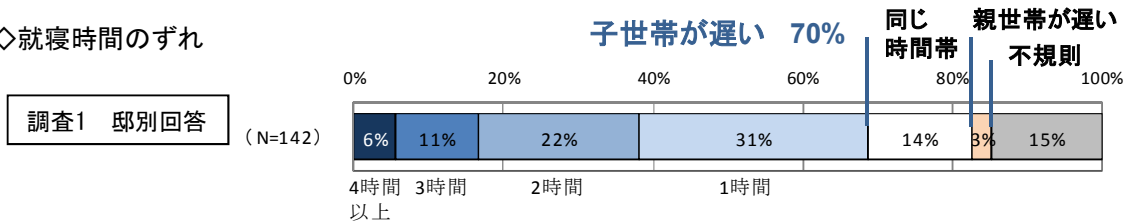


■ 子世帯の方が夜遅く朝早い

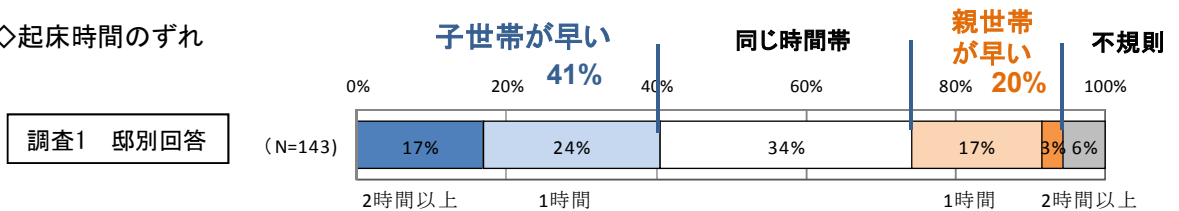
寝る時間と起きる時間について、親世帯と子世帯のずれと、23時以降の就寝率（＝夜更かし率）と朝6時以前の起床率（早起き率）を調べてみました。

子世帯の方が就寝時間が遅く、起床時間が早い傾向があります。親世帯には早起きのイメージがありますが、実際にはリタイア後は起きるの必要がなくなり早起き率は下がっていきます。その結果朝忙しい子世帯妻が早いことが多いのでしょう。

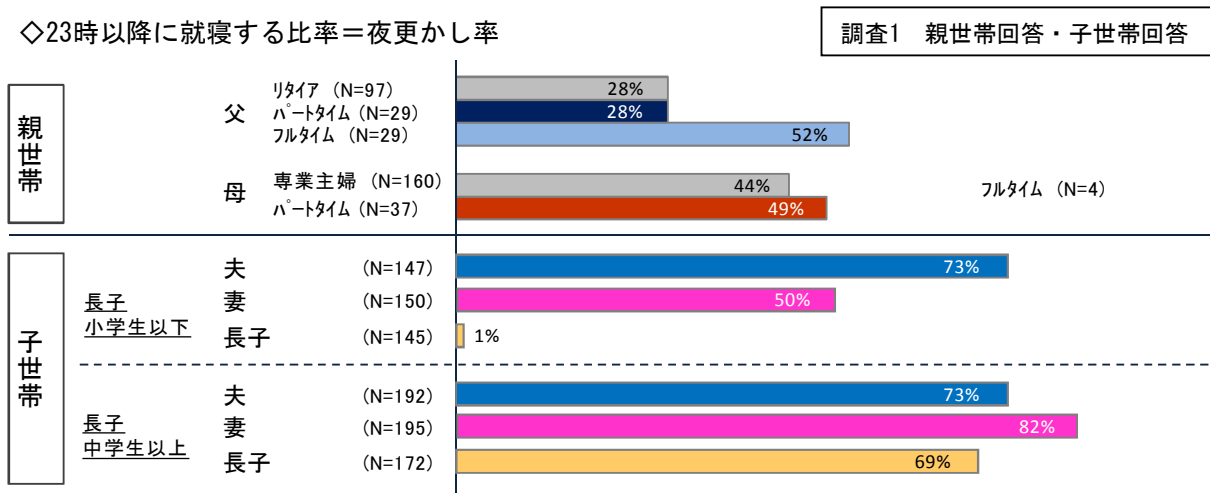
◇ 就寝時間のずれ



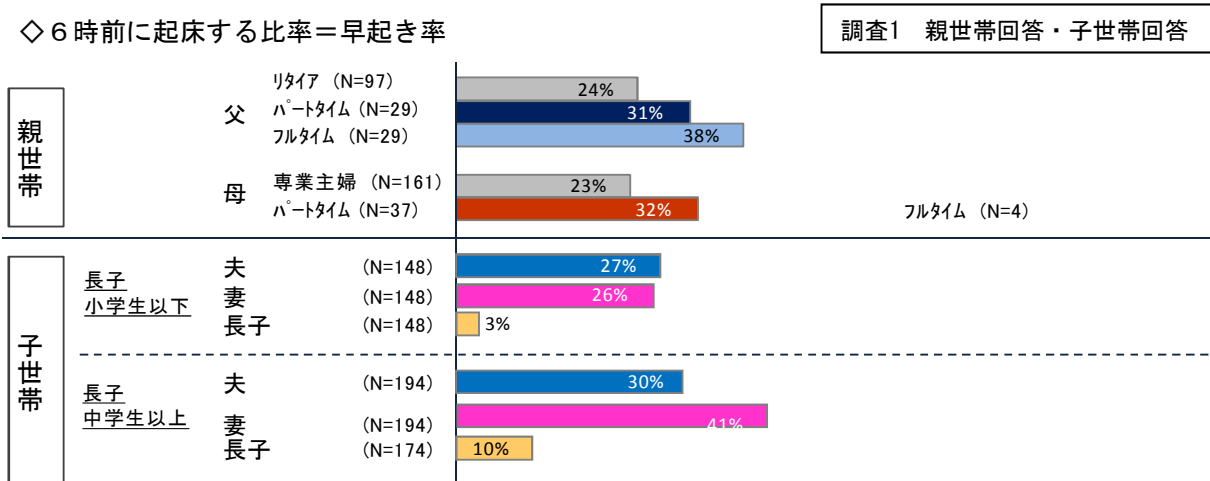
◇ 起床時間のずれ



◇ 23時以降に就寝する比率＝夜更かし率



◇ 6時前に起床する比率＝早起き率



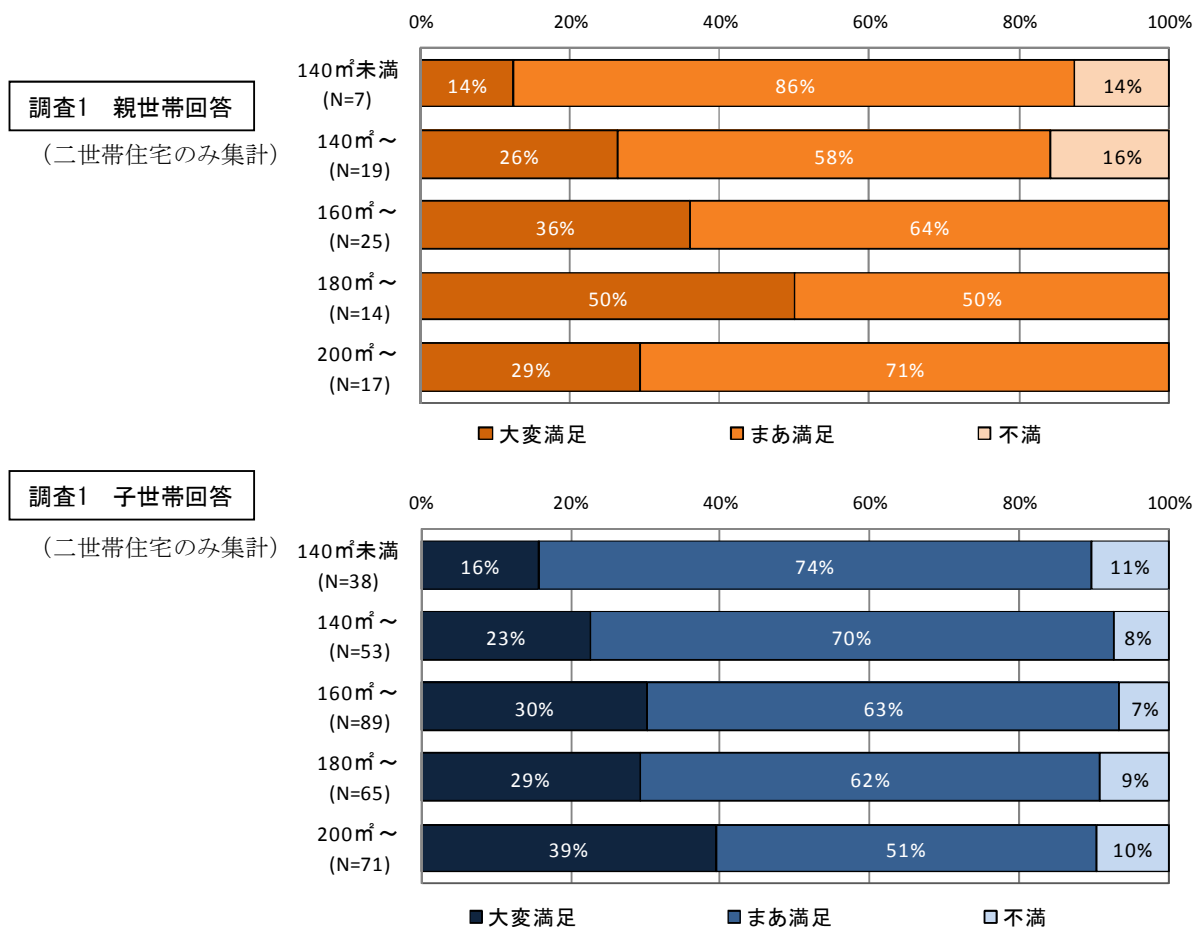
4-3. 面積と親世帯の間取り

■ 「同居に大変満足」の比率が高いのは180~200㎡以上

延床面積ごとに「同居に大変満足」している比率を分析すると、親世帯の回答では、160㎡以下では低く、200㎡までは面積が大きくなるほど高まります。子世帯でも面積が大きくなるほど、「大変満足」の比率が高くなっていますが、その差は親世帯ほど大きくはありません。

二世帯住宅は広ければ広い方がいいと考えられがちですが、現実的には160~200㎡程度あれば広さについてはよいと考えられ、工夫次第では140~160㎡でも満足頂けるものが出ています。一世帯当たり100㎡以下でも十分に満足が得られる可能性があります。

◇ 親世帯・子世帯の床面積別同居満足度

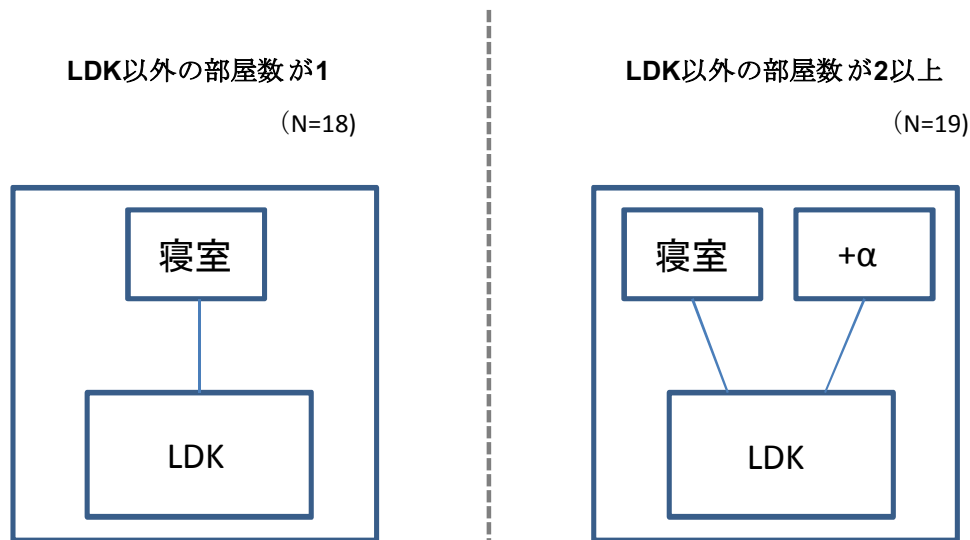


■親世帯は1LDKか2LDKかで満足度に大差

延べ面積が小さいと何故満足度が下がるのか、その理由を探るために親世帯の典型的なプランを抽出し、分析を行いました。抽出プランは親世帯回答（1都3県在住）で両親+夫婦+子の家族構成に限定し、子世帯と空間が分かれた独立二世帯または共用二世帯（玄関・浴室を共用するものを含む）としています。

その結果、1LDKのもの「大変満足」率17%と低く、2LDKの52%との差が大きくあることがわかりました。親世帯の最小構成としてはLDKと寝室で1LDKとなりますが、ここにもう一部屋加えて2LDKとすることが、満足度を上げるのに必要であることが示唆されました。また、LDKの平均帖数は全体で14.4帖ですが、1LDKでは11.3帖、2LDK以上では16.0帖となり、+αの部屋がある場合の方がLDKが広いことがわかりました。

◇LDK以外の部屋数が1と2以上との比較



延べ面積	156.03㎡	192.08㎡
親世帯面積	64.34㎡	86.17㎡
子世帯面積	91.69㎡	105.91㎡
子-親面積差	27.35㎡	19.74㎡
LDK平均帖数	11.3帖	16.0帖

大変満足率 17%

53%

4-4. 個の作業空間

■ 個の空間を持つイマドキ親世帯

自分の個室やコーナーがある人、または、欲しい人の割合は、父母ともに、イマドキ、コレカラで高くなっています。

この要因として、イマドキ、コレカラの父母はPCを持ち、写真の整理や工作・手芸といった作業が多いことが考えられます。コレマデ親世帯でも「机の上で書類を広げる」「本や資料を調べる」といった作業が見られますが、これらはLDKの一角で、ダイニングテーブルを使って行われることが多かったのではないのでしょうか。この場合は片付けて食事をする事になり、継続した作業ではないと考えられます。これに対しPCはプリンタといった周辺機器を含めれば置き場の確保が必要であり、写真の整理や工作・手芸といった作業も中断せずに継続して行いたい性質のものです。

■ 孫が来る親世帯ゆえに必要な専用のコーナー

親世帯のLDKには日常的に孫がよく訪れます。訪問調査でのインタビューでは、PCは孫のおもちゃになるとデータ消失等のリスクがありますし、写真整理や手芸の針なども孫には触られたくないので、独立したコーナーを設けたというお話を聞くことができました。このような理由から、専用のコーナーを持つケースが多いと考えられます。

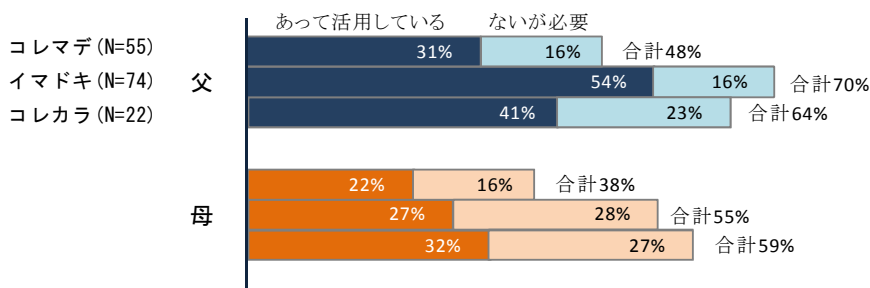
■ LDKと分離した専用のコーナーは来客時に有利

LDKにお客様を招くなら、LDKはいつでもスッキリときれいにしておきたいものです。知人を招くことが多いイマドキ親世帯では、このニーズが強いと思われ、LDKとから独立した作業空間を確保することは収納にもなりスッキリしたLDKを保つことにも繋がります。

◇自分の個室やコーナーがあるか
(あって活用している人+ないが必要と思う人の合計)

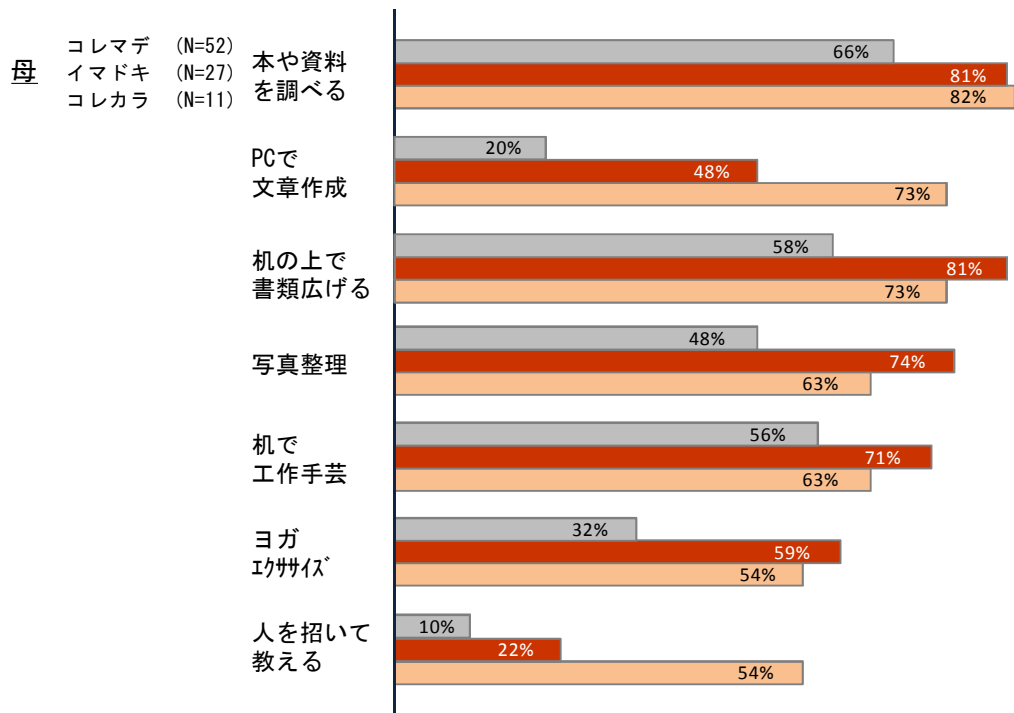
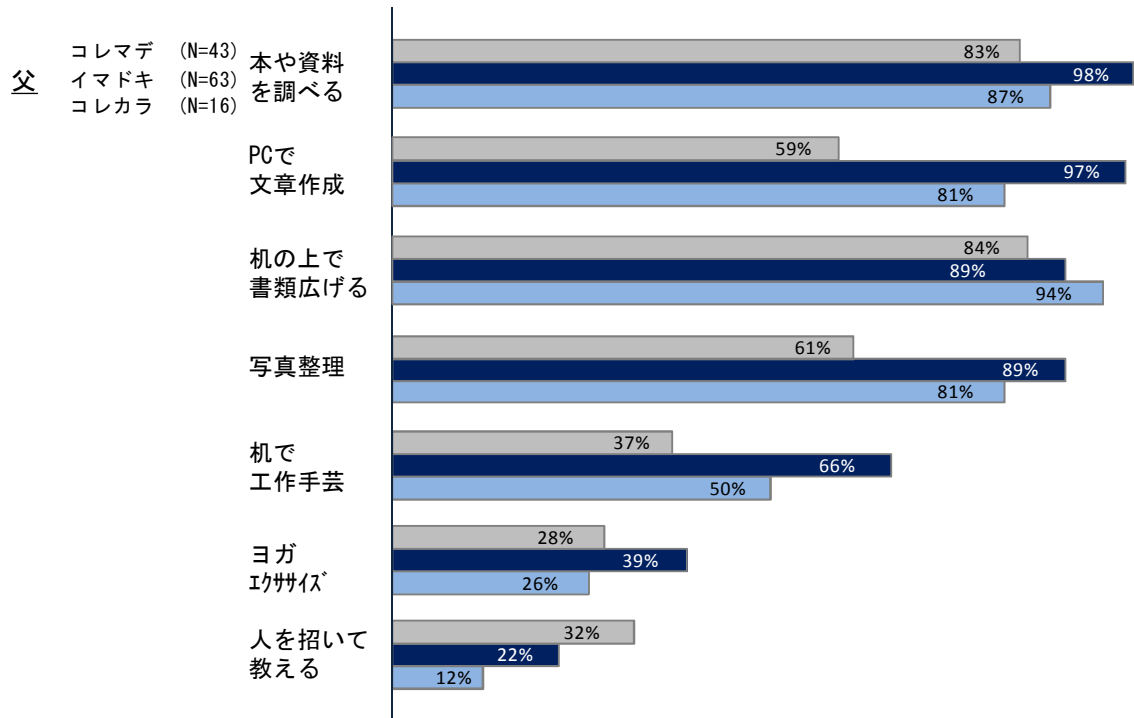
調査1 親世帯回答

親世帯回答 (父母ともにいる世帯のみ)



◇自宅での作業
(している人+していないがしたい人の合計)

調査1 親世帯回答



4-5. 実家ネットワークの収納

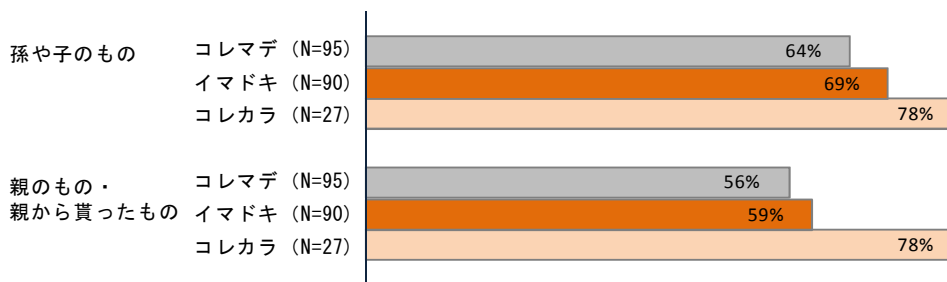
■親世帯には孫や子のもの、親のものも保管される

親世帯は建て替え前、子世帯が巣立った部屋数の多い家に住んでいるため、整理がされないままたくさんのモノを持っています。親世帯の面積は大幅に縮小されるため、収納スペースは限られています。

ところが、親世帯には自分たちのモノだけではなく、孫や子のモノ、親から貰ったモノなどが保管されていることが今回の調査でわかりました。この傾向は親世帯が若いほど強く表れています。同居の子のモノは子世帯に移りますが、近居・遠居の子のモノは残ります。親から受け継いだモノを含めて、収納を考えていく必要があります。

◇保管するもの（保管している人と保管したい人の合計）

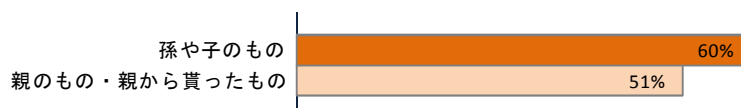
調査1 親世帯回答



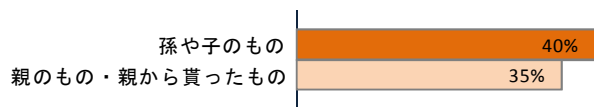
◇保管しているものと同居の満足度との関係

調査1 親世帯回答

同居生活に大変満足な人 (N=73)



同居生活にまあ満足な人 (N=127)



第4章 イマドキの二世帯住宅:まとめ

第3章で述べた実家ネットワークへの配慮と、第4章でのイマドキ親世帯のための二世帯住宅としての要件は以下のようにまとめることができます。これが実家力のある二世帯住宅としての設計条件となります。

親世帯

1. 家族が集まる、泊まる場所があり、客を招きやすいこと

実家ネットワークの強いイマドキ親世帯では、同居家族に加え、近居・遠居の子世帯も来て集まる空間、一家で泊まる空間が必要です。さらに、知人を招きやすいような工夫があるとよいでしょう。

親世帯

2. 父母それぞれの個人空間が充実し、収納が充分にあること

知人を招くには、LDKが片付けやすいことが必要です。イマドキ親世帯で多く行われるPCや作業の空間を独立して設けることで、LDKがスッキリと保たれます。さらに、親世帯の保管しているモノを収納するスペースを設けましょう。

二世帯全体－現在

3. 各世帯が自立し、それぞれの生活リズムで暮らせること

イマドキ親世帯と子世帯はそれぞれの生活リズムを制約されずに暮らせる、独立二世帯が理想といえるでしょう。玄関が独立していれば親族や知人も遠慮することなく訪れることができます。

二世帯全体－将来

4. 将来の介護サービス利用に配慮すること

子世帯が同居する目的として、親世帯の老後への備えがあります。しかし、同居の子世帯が介護の負担を全て背負うではありません。訪問、通所の介護サービスを活用し、近居・遠居の子世帯も手伝うのです。最終的には同居子世帯が土地を受け継ぎ、二世帯住宅に住み続けていくこととなります。

二世帯全体－経済

5. 上記の条件を面積を拡大せず実現すること

二世帯住宅の床面積は総予算とほぼ比例します。上記の多様な条件を足し合わせた空間を作れば、大幅に予算も膨らみます。親族や知人の訪れる空間も日常生活や将来対応に活用し、生活シーンを重ね合わせて高密度に利用できるようにします。総予算を減らせば親世帯の資金を残すことができ、老後の備えや相続時の財産分与にもできます。

第5章 住まいの空間提案

5-1. 実家力のある二世帯住宅の空間提案

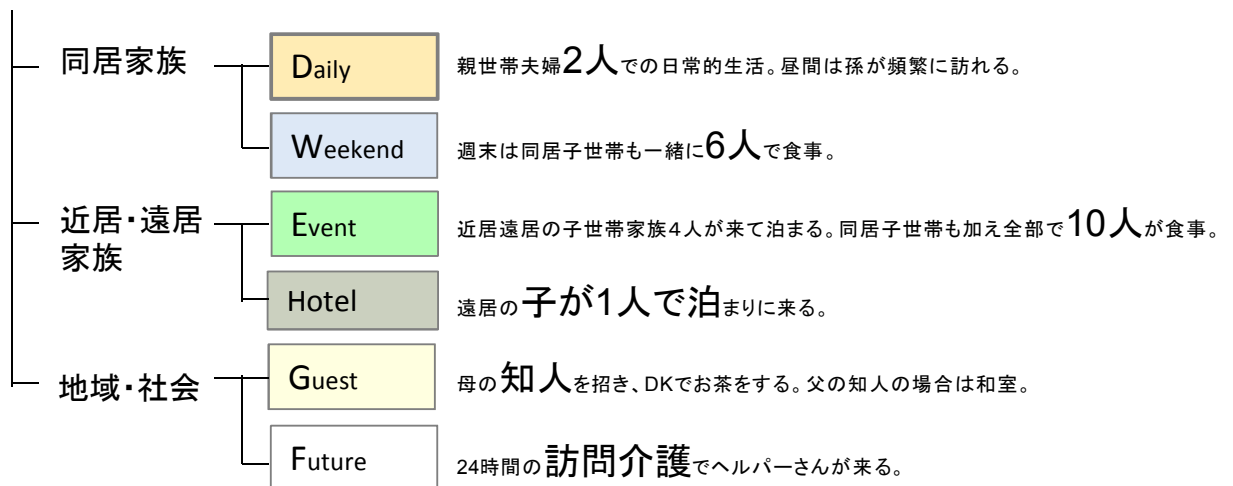
本章では、調査結果から導いた設計条件を実現するための空間を提案します。

■生活シーンから親世帯空間を考える

新しい設計条件を空間に反映させる際には、具体的な生活シーンを想定し、その暮らしをプラン上で「くらしシミュレーション」していくのが一番確実な方法です。そこで、親世帯空間に求められるシーンとして、次の6つのシーンを想定しました。

実家のシーン

親世帯、同居子世帯が加わるシーンはもちろん、近居遠居子世帯や地域とのつながりも想定。

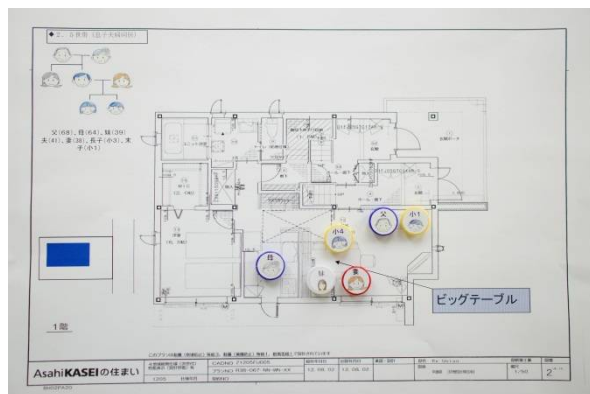


◇くらしシミュレーションについて

人に見立てたコマの動きで生活シーンをプラン上でシミュレートする方法。くらしノベーショナル研究所が行っている社内研修でもよく使われています。



家族のコマ



夕食前シーンのくらしシミュレーション

■二世帯住宅としての構成

二世帯住宅のタイプは独立二世帯、または玄関共用二世帯を想定し、その親世帯を構成する空間を、実家ネットワークに配慮して再構成しました。

■親世帯を構成する空間

6つのシーンを実現する空間として、次の4つの空間を新たに提案します。各空間と生活シーンとの関係を下表で整理しました。

1. イマドキLDK

家族が多く集まって食事できる、ビッグテーブルを中心としたコンパクトなLDK

2. タタミリビング

イマドキLDKに隣接し、将来介護スペースとなる和室

3. どっちもルーム

一人の宿泊や、親子両世帯共通の収納になる部屋で、将来子世帯個室にもなる

4. コックピット書斎

LDKとは別室の2帖程度のコンパクトな書斎スペース

◇親世帯構成空間と生活シーンの対応

		親世帯構成空間				
		イマドキLDK ビッグテーブル+サウ ンドキッチン+TVコー ナー	タタミリビング 将来 訪問介護室	どっちも ルーム	コックピット 書斎	
生活シーン	同居家族	Daily	親世帯夫婦 2人 もしくは+孫	リビングからつかず はなれずの寝転が る居場所	孫ロッカーとしてお稽古 ごとの用意など	孫に触られない 作業空間
		Weekend	週末は同居子世帯も 一緒に 6人 で食事。		子世帯が借りる親世帯 のものの置き場	
	近居遠居家族	Event	近居遠居子世帯が 来て 10人 が食事。	遠居なら泊まる。 ふとん敷く。	近居遠居子世帯がモ ノを借りることも	
		Hotel			遠居の子が1人で出張 後泊まる。ベッド有。	
	地域・社会	Guest	母の知人がお茶。	父の知人は和室。		来客ゾーン通らぬ 動線がある父の居 場所
		Future		介護室となりデイサ ービスに送り出したり 、24時間訪問介護ヘ ルパーさんが来る。	子世帯の子ども 部屋として使用	

5-2. イマドキLDK：集まる・招く空間

■LDKの生活シーン

LDKにおける実家の特徴的なシーンを次の4つにまとめました。

Daily

普段は親世帯だけの少人数の食事。子世帯は共働きなので、孫は学校から帰ると親世帯のLDKで過ごす。

Weekend

週末は同居家族が集まって6人で食事する。ビッグテーブルで大皿料理。子世帯からも料理が運ばれ、父が孫に手伝わせながら取り皿を出したりする。

Event

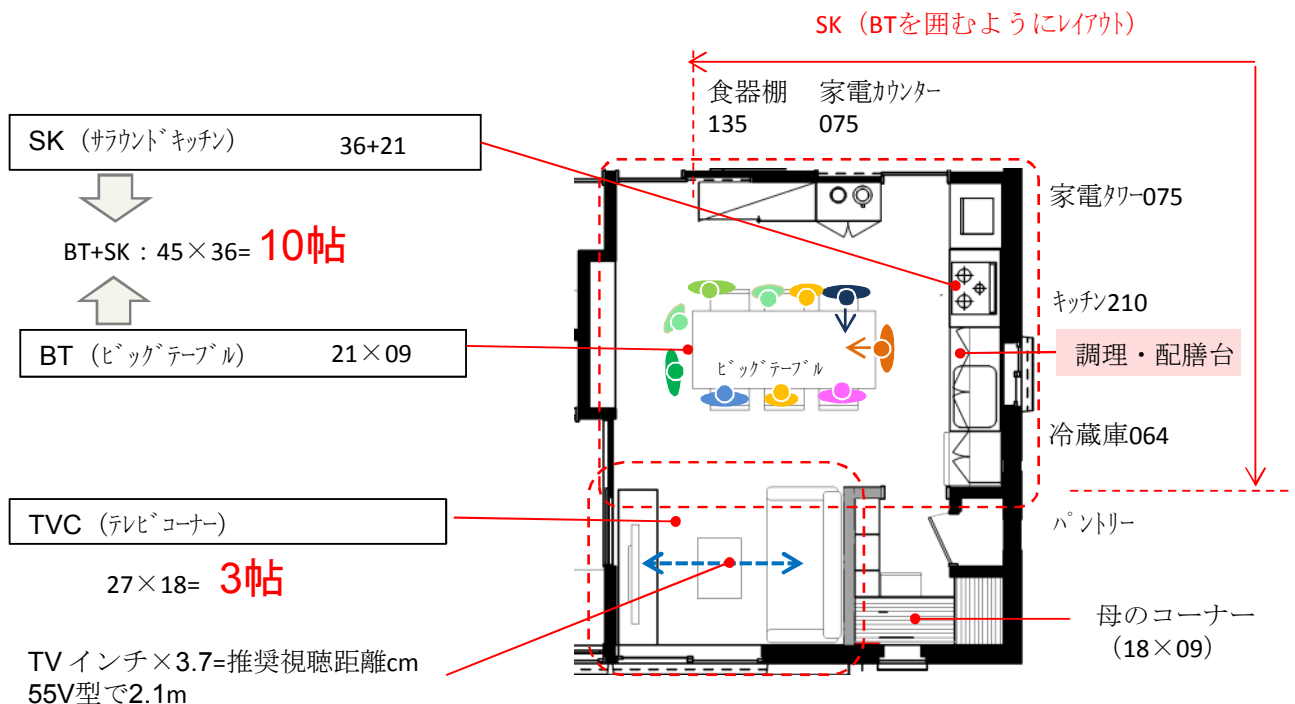
誕生日には近居・遠居家族が来て10人で食事する。

Guest

母の友人はLDKでお茶に来る。

■イマドキLDKの構成

- 1) ビッグテーブル(BT) :
子どもを含め10人が集まるための2.1×0.9mのサイズ。
- 2) サラウンドキッチン(SK) :
BTを囲むようにL型に配置されたキッチン。
キッチン本体は2.1m巾。
家電タワー、家電カウンターを充実。
ビッグテーブルを調理台の補助とする。
- 3) TVコーナー(TVC) :
3帖大の空間でハイビジョンTVの推奨視聴距離を確保。



■サラウンドキッチンによるコンパクト化

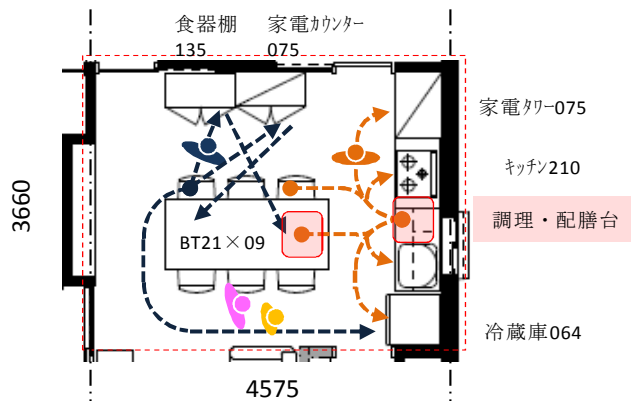
ビッグテーブルを置くためにダイニングスペースは大きくする必要があります。従来の対面キッチンのスペースを加えると、DKだけで**13.3帖**必要です。ビッグテーブルの周囲にキッチン配置すれば、通路のスペースがダイニングスペースと兼用でき、コンパクトになります。これがサラウンドキッチンの基本的な考え方です。

キッチンとダイニングテーブルが近く、動線がコンパクトになるため、大人数でも動線が交差せず、調理する人以外も自由に動くことができます。従来の対面キッチンは主婦一人で効率よく動けるように考えられていますが、大人数で集まるシーンでは動線が重なりスムーズに動くことができません。

イマドキLDK

BT+RKコーナー (45×36) = 10帖

ビッグテーブルとキッチンが近く配膳動線が短い。
大人数でも動線がかち合わないため、家族が自由に家電を使いやすい。



従来の対面K

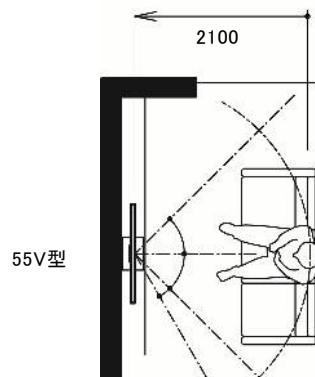
(61×36) = 13.3帖

キッチン専用の動線空間をとるため、15余計に空間が必要。
主婦一人では効率的な動きだが、ダイニングと遠く、他の家族が参加しにくい。



■コンパクトなTVコーナー

ハイビジョンの時代になり、TVは近くで見た方が迫力が得られることも多くなりました。一般には画面の3倍が推奨されている視聴距離となります。具体的にはインチ表示の**3.7倍**程度、**55V型**であれば**2.1m**程度が推奨されています。この寸法を使ってコンパクトなTVコーナーとしました。



5-3. タタミリビング：泊まる空間の兼用と転用

■タタミリビングの生活シーン

普段は居場所として日常生活のシーンがあり、家族が泊まったり、客を招くシーンもあります。将来の訪問介護に対応したシーンを想定しています。

Daily

父がTVを見る居場所。孫が遊ぶ。

Event

近居・遠居の子世帯がふとんを敷いて泊まる。
LDKから目が届く、孫が集まる遊び空間になる。

Guest

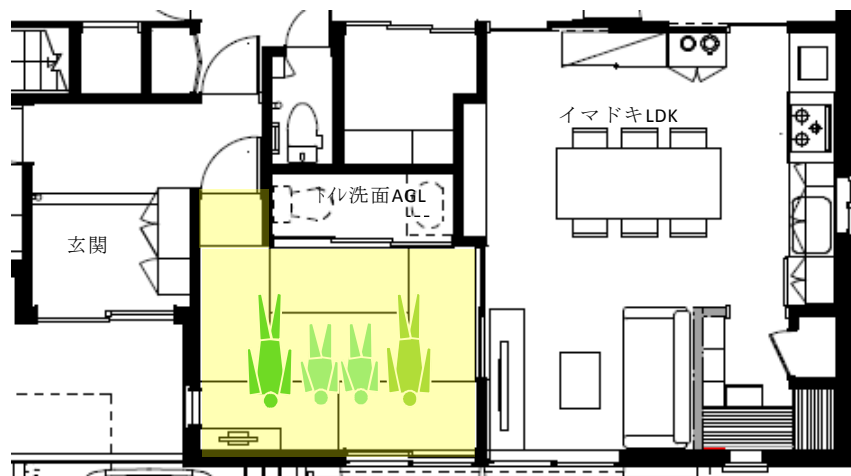
父の友人を和室に招いて、母は仕切られたLDKでくつろぐ。

Future

親世帯どちらかが要介護となったら、介護室にリフォーム。
車椅子の使用で通所施設からの迎えの車に乗るため、道路まで出る。
寝たきりの状況での24時間介護で、深夜早朝の家族が寝ている時間帯にヘルパーが来て汚物を捨てたり洗ったりする。

■タタミリビングの構成

泊まることをメインとしながらも多様なシーンに対応できるようにタタミのスペースとします。接客シーンや普段の生活シーンにおいてLDKとのつながりが深いためイマドキLDKに隣接し、将来の訪問介護に対応するために玄関からアクセスしやすい位置とします。

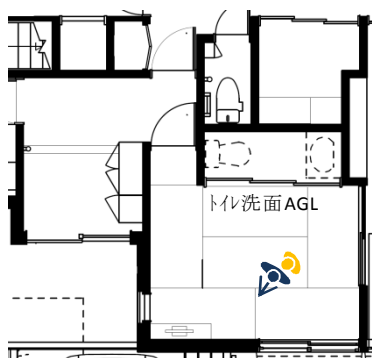


■イマドキ二世帯の将来介護対応には和室の転用

将来にわたって親世帯が住み続けるためには在宅介護を念頭に置いておくことは重要です。そのため現在の生活シーンで有用な和室を設け、将来改造する提案として対応できるようにしています。

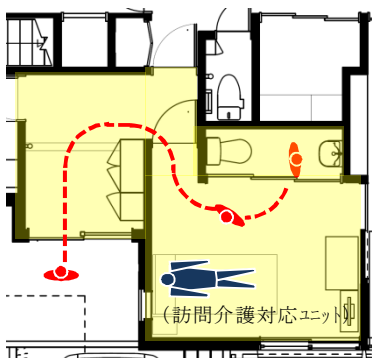
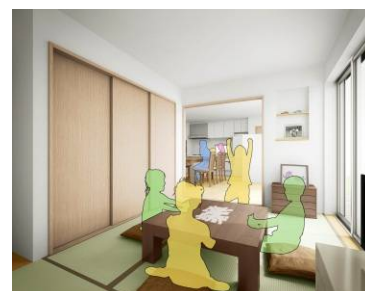
◇訪問介護ゾーンを限定

親世帯に介護サービスを導入する際、24時間の訪問介護を想定し不必要なゾーンにはヘルパーが入れないよう仕切ります。玄関+介護室+トイレ・洗面のセットを最小限の立ち入り範囲でゾーニングすることにより、建具に鍵をつければ施錠も可能で妻が寝ている時にも配慮しています。



6帖以上の和室に
介護配慮

将来在宅介護の配慮がある
トイレ・流し用にAGLで配
管準備



訪問介護室にリフォー
ーム (洋室化)

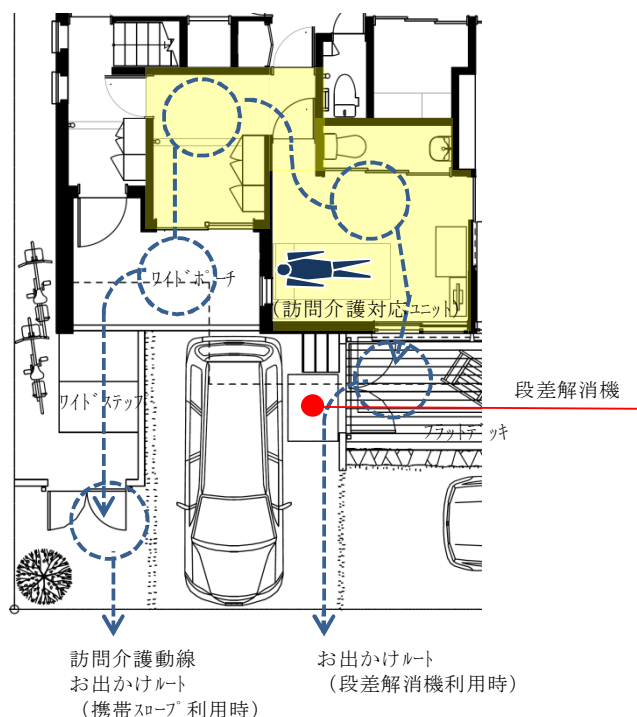
左麻痺ある場合は逆勝
手で改造も可能



◇通所介護を想定したルート確保

通所介護に出かけるために2通りのお出かけルートを設定しています。玄関を通るルートは携帯スロープ・ワイドステップにて段差に対応しています。居室からフラットデッキを通るルートでは段差解消機を用います。

いずれの場合も車いすのルートを設定し回転スペースを考慮しておくことが必要です。



5-4. どっちもルーム：泊まる・収納する・用途可変空間

■どっちもルームの生活シーン

実の子が一人で泊まるシーンに加えて、普段は共用のモノの置き場として使われ、将来はどちらの世帯の個室としても使うことを想定します。

Daily

親世帯のモノを子世帯が借りる。子や孫のモノが保管されている。

Hotel

遠居の子が出張ついでに実家に泊まる。飲んで帰るので親世帯が寝た後到着。風呂や洗面所は勝手に使ってどっちもルームの昔使っていたベッドで寝る。

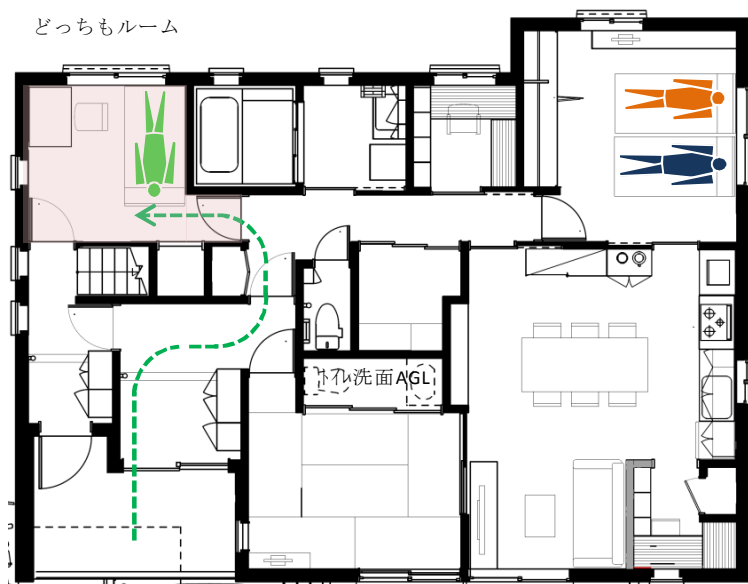
Future

想定よりも孫が増えた場合は将来子世帯の個室にもなる。

■どっちもルームの構成

別居の子が夜来て泊まる最低限の部屋です。昔使っていたベッドがそのまま置かれます。深夜に泊まりに来るシーンを想定して、家族の寝室から離れた位置にあり、玄関に近くなっています。

実家にありがちな皆で使うモノが保管され、子世帯からも入れるよう動線と位置が考えられています。



5-5. コックピット書斎：個の空間

■コックピット書斎の生活シーン

父の個の空間では、机の上で書類を広げ、本や資料を調べ、PCを使い、写真の整理をするということが行われます。また、母の来客時には父の居場所となるため、LDKの一角でない場所に位置し、自由に動けるように想定しています。

Daily

父がこもって作業をする。孫に触らせたくないPCや工具、カメラなどが置かれる。

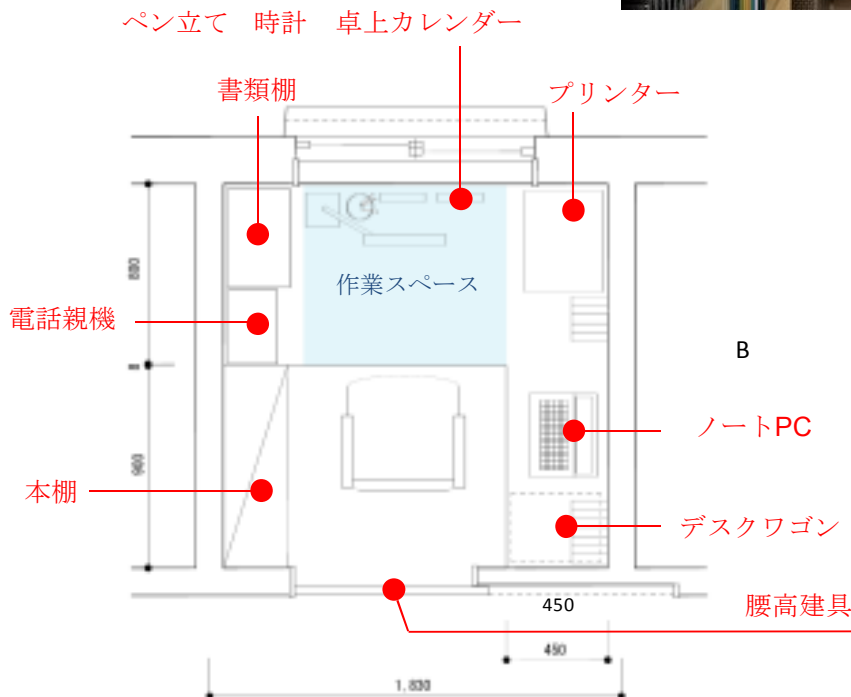
Guest

母の来客時の居場所となる。子世帯に行ったり外出したりする際、来客が居るLDKを通るのは気が引ける。

■コックピット書斎の構成

椅子から全て手の届く範囲にモノが置かれる2帖以下の高密度書斎スペース。L型のカウンターでPC、プリンタを設置しても作業面がとれ、3面ある壁面をフル活用して収納量を確保しています。

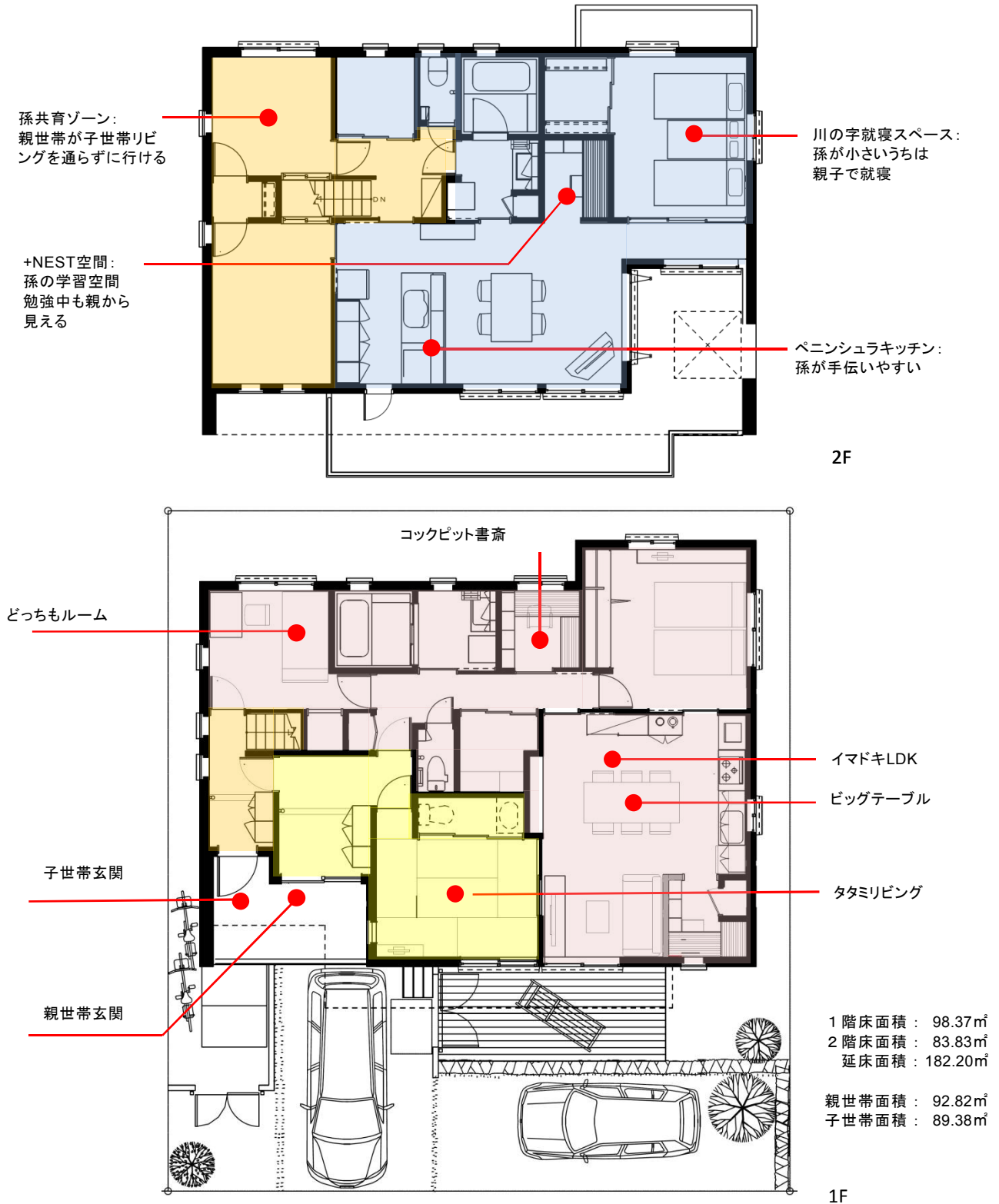
腰高建具で孫は内側の鍵に手が届かないが大人は手が届くようになっています。



第5章 住まいの空間提案:まとめ

■プランニング例

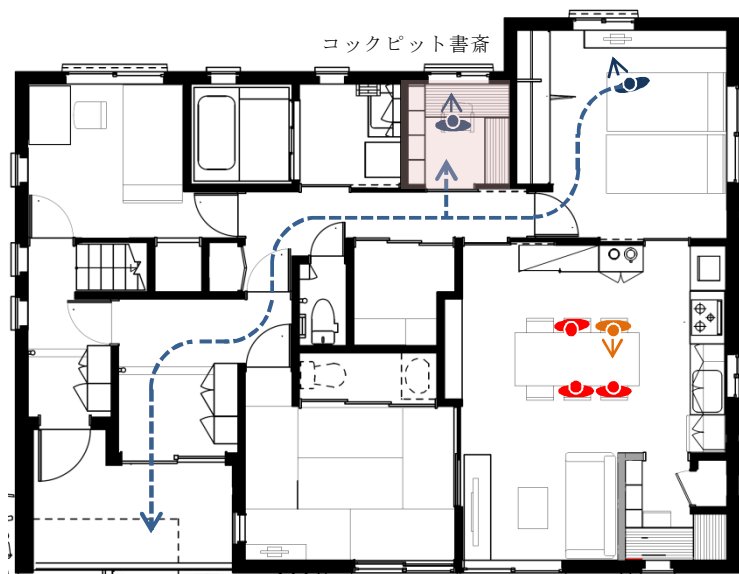
親世帯をイマドキLDK・コックピット書斎・どっちもルーム・訪問介護対応ユニットの4つの空間で構成したプランです。子世帯は従来の提案から、孫共育ゾーニングや+NEST空間を用いて設計しています。



■親世帯の動線計画のポイント

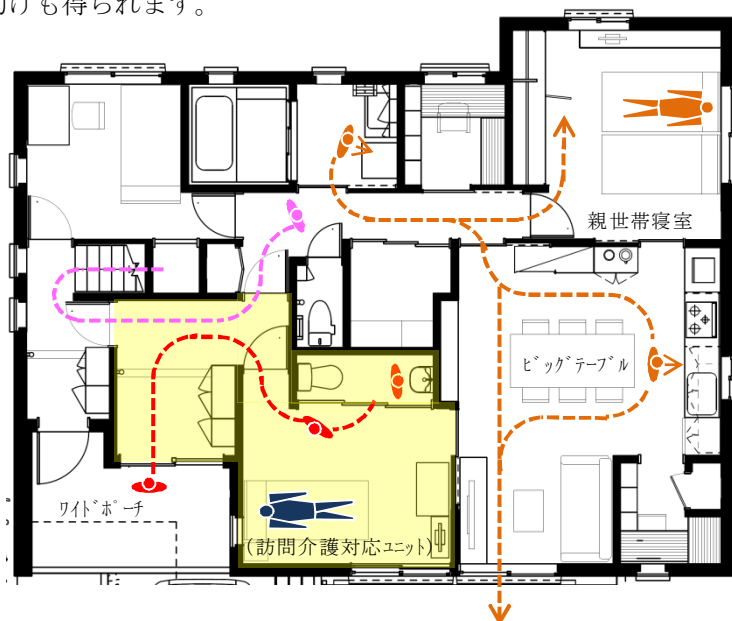
◇コックピット書斎にいる父は自由な動線

父の動線がLDKの来客とは関係なく、独立して確保されています。寝室や水廻りに自由に行けて、外出も可能です。



◇同居家族の介護動線

訪問介護ゾーン以外で、母の日常生活は完結します。また、訪問介護ゾーンには同居の娘が様子を見に来ることも考慮されているため、娘の助けも得られます。



調査報告書執筆者:

旭化成ホームズ株式会社
くらしノバージョン研究所長 松崎 昭夫

旭化成ホームズ株式会社
くらしノバージョン研究所
二世帯住宅研究所長 松本 吉彦

旭化成ホームズ株式会社
くらしノバージョン研究所
二世帯住宅研究所 主幹研究員 安達 匡



イマドキ親世帯の実家ネットワーク

調査報告書

発行： 2013年8月5日
発行所： 旭化成ホームズ株式会社
くらしノバージョン研究所
二世帯住宅研究所
〒160-8345 東京都 新宿区 西新宿 1-24-1 エステック情報ビル
電話 03-3344-7045

ver. 1.1 (130805web)